



学校法人 高田学苑

令和2年度
事業報告書

Annual report

Contents

法人の概要 . . . 2～10

建学の精神/教育方針/設置する学校、定員及び現員/役員・評議員/教職員数/組織構成図/
校舎敷地及び建物等の概要/学生・生徒志願者数推移/学生・生徒在籍者数推移（部門）/
学生・生徒進路状況

事業実績の概要及び進捗状況 . . . 11～17

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況/監査法人監査報告/安全管理への取り組み/
新型コロナウイルス感染症対策/教職員の健康管理体制/教職員の表彰/教職員の異動状況/
給付型奨学金・授業料等減免（助成）・短期大学入学金免除制度/高田学苑クラブチーム事業報告

教育活動の実績及び進捗状況

－高田短期大学－

. . . 18～40

時代・社会の変化に即応した取り組み

学士力向上を目指した教育課程の展開/自己点検・自己評価の取組/

主体性・協調性を育む短大生活支援/キャリア教育・キャリア支援の充実/学生募集と高大交流事業/

外国人留学生支援について

地域への社会貢献事業

地域連携施設

仏教教育研究センター/育児文化研究センター/キャリア研究センター/介護福祉研究センター
施設設備の整備事業の実績

－高田中学校・高等学校－

. . . 41～53

命の大切さを考える教育の推進/人権教育研修の推進/きめ細やかな学習指導の推進/

ICT教育とアクティブラーニング対策/キャリア教育の推進/大学との連携事業/

部活動の推進/防災教育・危機管理教育の取り組み/感染症に対する取り組み/

学校安全・生活指導、保険計画の推進/国際交流事業/語学研修/教職員海外研修/

学校自己点検・学校関係者評価/教職員資質向上への取り組み/

生徒募集活動/施設設備の整備事業の実績

財務の概要 . . . 54～64

資金収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）

活動区分資金収支計算書の概要（全体）

事業活動収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）

令和2年度補助金一覧表

貸借対照表の概要

財産目録

法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



教育方針

短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。



中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。



設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野 195
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町 2843
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町 2843

(令和2年5月1日現在)

高田短期大学					
学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	131名	118名	249名
キャリア育成学科	100名	200名	95名	92名	187名
〔 オフィスワークコース	〔 60名	〔 120名	〔 69名	〔 61名	〔 130名
〔 介護福祉コース	〔 40名	〔 80名	〔 26名	〔 31名	〔 57名
合計	250名	500名	226名	210名	436名

高田中・高等学校						
	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田高等学校	560名	1,728名	590名	579名	606名	1,775名

(学則定数 730名)(3ヵ年計 2,190名)

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田中学校	190名	550名	205名	193名	207名	605名

(学則定数 240名)(3ヵ年計 720名)

役員・評議員

(令和2年10月1日現在)

理事		定数10名 実数9名	
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	増田 修一	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥	学校法人高田学苑 理事長 (学苑長)	
	梅林 久高	高田短期大学 学長	
	鷺尾 尚史	高田中・高等学校 校長	
第3号 評議員	井村 正勝	井村屋グループ(株) シニア・フェロー	
	永井 玲子	医療法人永井病院 理事	
	志田 行弘	三重テレビ放送(株) 相談役	
	岩崎 克彦	医療法人思源会 常務理事	
	松田 英明	三重牛セキ販売(株) 代表取締役社長	

監事		定数2名 実数2名	
区分	氏名	現職等	
監事	下津 和文	下津醤油(株) 代表取締役会長	
	山中 利之	山中利之税理士事務所 公認会計士・税理士	

評議員		定数21～25名 実数22名	
区分	氏名	現職等	
第1号 宗務総長	増田 修一	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	高臣 文祥	学校法人高田学苑 理事長 (学苑長)	
	梅林 久高	高田短期大学 学長	
	鷺尾 尚史	高田中・高等学校 校長	
第3号 法人職員	鷺尾 敦	高田短期大学 キャリア育成学科長	
	福西 朋子	高田短期大学 子ども学科長	
	宇河 晴美	高田中・高等学校 副校長	
	高梨 正	高田中・高等学校 教頭	
第4号 功労者	井村 正勝	井村屋グループ(株) シニア・フェロー	
	岩崎 克彦	医療法人思源会 常務理事	
	千草 篤麿	(福)高田真善会 報徳園 施設長	
	小柴 弥生	小柴産業(株)	
第5号 卒業者	松田 英明	三重牛セキ販売(株) 代表取締役社長	
	倉田 栄治	(株)津ドライビングスクール 代表取締役	
	伊藤 博康	(有)平治煎餅本店 代表取締役	
	稲田 直子	なし	
第6号 本山総務	弓削 弘嗣	(宗)真宗高田派総務	
第7号 学識経験者	永井 玲子	医療法人永井病院 理事	
	志田 行弘	三重テレビ放送(株) 相談役	
	雲井 敬	三重交通グループホールディングス 監査役	
	浜田 吉司	(株)マस्याグループ本社 代表取締役	
	山田 瞳	楠井法律事務所 弁護士	

教職員数

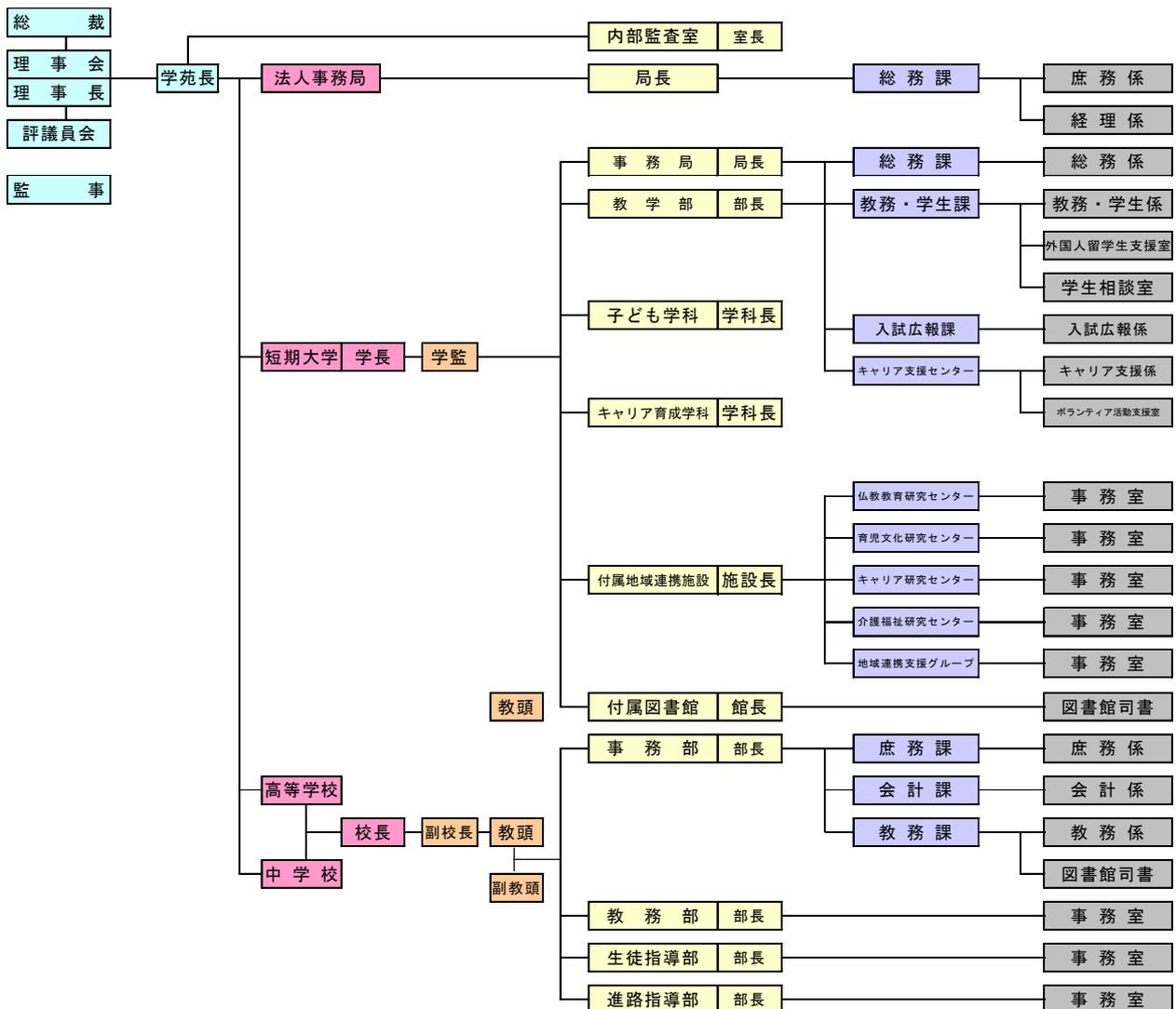
(令和2年8月1日現在)

		教 員		職 員		合 計
		本務教員	兼務教員 嘱託・非常勤等	本務職員	兼務職員 嘱託・非常勤等	
本 部		—	—	6 名	2 名	8 名
短 期 大 学	子ども学科	15 名	29 名	15 名	11 名	70 名
	キャリア育成学科	11 名	40 名	8 名	8 名	67 名
	〔 オフィスワークコース 介護福祉コース	〔 7 名 〔 4 名	〔 21 名 〔 19 名	〔 6 名 〔 2 名	〔 4 名 〔 4 名	〔 38 名 〔 29 名
高等学校		95 名	37 名	9 名	11 名	152 名
中学校		28 名	14 名	3 名	0 名	45 名
合 計		149 名	120 名	41 名	32 名	342 名

(注) 学苑長は学苑本部の本務職員に、短大学長は子ども学科の本務教員に含む。

また、短大の兼務教員数には非常勤講師の後期採用者も含む。

組織構成図



校舎敷地及び建物等の概要

区分		専用面積㎡	計面積㎡	所在地	権利の所属	備考
短期大学用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
	計	18,991	18,991			
上記以外の学校用地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田町他	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	49,169	49,169	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	9,875	9,875	〃	〃	内 借用1,663㎡
	計	89,979	89,979			
合 計		108,970	108,970			
校地以外の土地		61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山 林

短期大学の部

区分	面積㎡	室数	構 造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺3階建	〃
部室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

法人本部、高等学校・中学校の部

区分	面積㎡	室数	構 造	権利の所属
本館	4721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1889.03	12	鉄筋コンクリート造切妻屋根3階建	〃
第3体育館	2081.54	6	鉄筋コンクリート・鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき2階建	〃
クラブハウス1	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
クラブハウス2	162.00	11	鉄筋コンクリート造陸屋根2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			〃
計	28798.37	235		
合 計	41555.99	369		

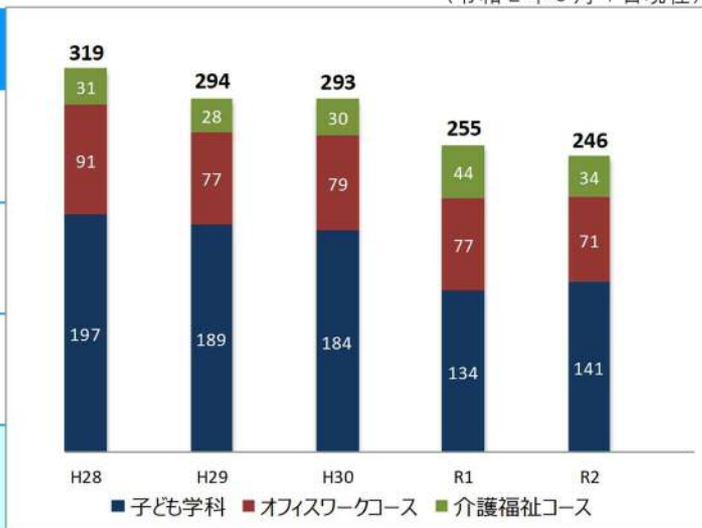
備考（その他／機械室6.62㎡ 倉庫東、西47.95㎡ 渡り廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡）

学生・生徒 志願者数 推移

短期大学

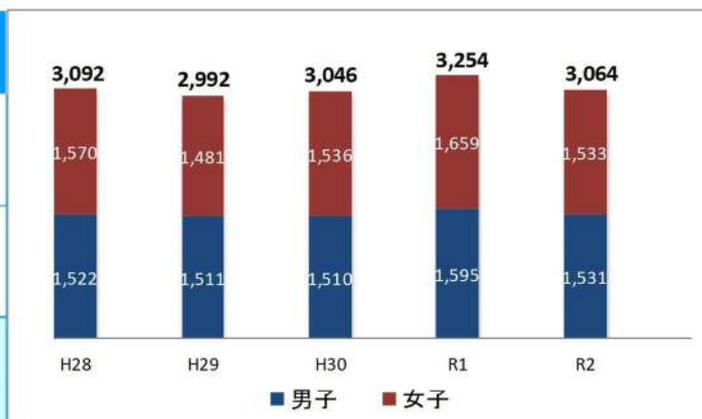
(令和2年5月1日現在)

	H28	H29	H30	R1	R2
子ども学科	197	189	184	134	141
キャリア育成学科 オフィスワーク コース	91	77	79	77	71
キャリア育成学科 介護福祉コース	31	28	30	44	34
計	319	294	293	255	246



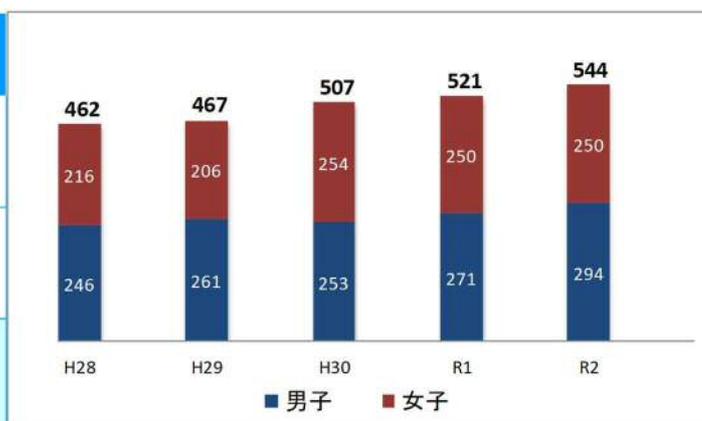
高等学校

	H28	H29	H30	R1	R2
男子	1,522	1,511	1,510	1,595	1,531
女子	1,570	1,481	1,536	1,659	1,533
計	3,092	2,992	3,046	3,254	3,064



中学校

	H28	H29	H30	R1	R2
男子	246	261	253	271	294
女子	216	206	254	250	250
計	462	467	507	521	544



学生・生徒 在籍者数推移表

短期大学

(令和2年5月1日現在)

区分	項目	H28	H29	H30	R1	R2	
子ども学科	在籍生数	313	310	321	283	249	
	収容定数	300	300	300	300	300	
	充足率	104%	103%	107%	94%	83%	
キャリア育成学科	在籍生数	170	183	172	183	187	
	収容定数	200	200	200	200	200	
	充足率	85%	92%	86%	92%	94%	
オフィスワークコース	在籍生数	130	141	132	133	130	
	収容定数	120	120	120	120	120	
	充足率	108%	118%	110%	111%	108%	
介護福祉コース	在籍生数	40	42	40	50	57	
	収容定数	80	80	80	80	80	
	充足率	50%	53%	50%	63%	71%	
計	在籍生数	483	493	493	466	436	
	収容定数	500	500	500	500	500	
	充足率	97%	99%	99%	93%	87%	

中・高等学校

(令和2年5月1日現在)

区分	項目	H28	H29	H30	R1	R2	
高等学校	在学生数	1,783	1,790	1,814	1,782	1,775	
	収容定数	1,714	1,728	1,732	1,728	1,704	
	充足率	104%	104%	105%	103%	104%	
中学校	在学生数	561	573	599	604	605	
	収容定数	560	540	540	550	560	
	充足率	100%	106%	111%	110%	108%	
計	在学生数	2,344	2,363	2,413	2,386	2,380	
	収容定数	2,274	2,268	2,272	2,278	2,264	
	充足率	103%	103%	106%	105%	105%	

学生・生徒 進路状況

卒業生・進学者・就職者数

(令和3年5月1日現在)

	子ども学科	キャリア育成学科		合計	摘要
		オフィスワーク	介護福祉		
卒業生	118	60	30	208	
就職希望者	114	60	28	202	
就職決定者	113	60	28	201	
未内定者	1	0	0	1	
進学者	0	0	0	0	大学等
その他	4	0	2	6	家事従事等

過去3ヶ年の公務員試験合格者

●子ども学科

市町名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R2	R1	H30	R2	R1	H30	R2	R1	H30
津市	保育士・幼稚園教諭	3	4	3	4	5	3	7	9	6
四日市市	保育士	2	1	1	0	0	0	2	1	1
伊勢市	保育士	0	2	0	0	0	0	0	2	0
松阪市	保育士・幼稚園教諭	8	12	7	0	1	0	8	13	7
鈴鹿市	保育士・幼稚園教諭	1	2	2	1	0	0	2	2	2
亀山市	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	1	0	0	1	0	0
鳥羽市	保育士	3	2	1	1	0	1	4	2	2
志摩市	保育士・幼稚園教諭	0	1	0	0	0	5	0	1	5
東員町	保育士・幼稚園教諭	0	0	1	0	0	1	0	0	2
伊賀市	保育士・幼稚園教諭	1	1	0	0	0	0	1	1	0
名張市	保育士・幼稚園教諭	1	1	0	0	0	0	1	1	0
菰野町	保育士・幼稚園教諭	0	1	0	0	0	0	0	1	0
川越町	保育士	0	1	0	0	0	0	0	1	0
多気町	保育士	0	0	1	0	0	1	0	0	2
明和町	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大台町	保育士	0	1	3	0	2	0	0	3	3
玉城町	保育士	0	3	0	0	0	1	0	3	1
度会町	保育士	0	1	0	0	0	0	0	1	0
大紀町	保育士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
御浜町	保育士	0	0	0	0	1	0	0	1	0
弥富市	保育士	0	1	1	0	0	0	0	1	1
その他県外	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	0	0	1	0	0	1
計		19	34	21	7	9	13	26	43	34

●キャリア育成学科 オフィスワークコース

採用試験名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R2	R1	H30	R2	R1	H30	R2	R1	H30
県・市町	行政	1	0	2	0	0	0	1	0	2

主な就職先・配属先

(令和3年5月1日現在)

子ども学科		エンゼル幼稚園、高田幼稚園、津西幼稚園、まつさか幼稚園、いそやま保育園、えがお保育園、志登茂保育園、高田保育園、わかすぎ保育園、亀山愛児園、こどもの杜ゆたか園、津カトリックこども園、ほうりん認定こども園、里山学院、みどり自由学園、市町立幼稚園・保育所 他
キャリア育成学科	オフィスワーク	三十三フィナンシャルグループ、(株)百五銀行、JA共済連、朝日ガスエナジー(株)、(株)川崎ハウジング、(株)サイネックス、百五不動産調査(株)、(株)スズキ自販三重、三重いすゞ自動車(株)、三重ダイハツ販売(株)、三重トヨタ自動車(株)、三重トヨペット(株)、遠山病院、(株)ニチイ学館、丸之内まつなが眼科、松阪市 他
	介護福祉	あけあい会、永甲会、佐藤病院、聖マッテヤ会、高田真善会、富田浜病院グループ、ヤナセメディケアグループ、ライフ・テクノサービス 他

高等学校

卒業生・進学者・就職者数

		男	女	計
三年制	I類	89	121	210
	II類	114	108	222
六年制		110	62	172
計		313	291	604

進学合格者のべ数

		三年制				小計	六年制		小計	合計
		I類		II類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
大学 四年制	国立	1	0	8	5	14	75	16	91	105
	公立	0	0	8	0	8	6	1	7	15
	私立	118	3	262	63	446	277	140	417	863
文部科学省所管外		0	0	0	0	0	1	1	2	2
海外		0	0	0	0	0	0	0	0	0
短大	公立	8	0	9	2	19	0	0	0	19
	私立	42	0	15	0	57	0	0	0	57
国公立各種・専門学校		5	0	4	0	9	0	0	0	9
私立各種・専門学校		64	0	23	1	88	0	0	0	88
就職		3	0	2	0	5	1	0	1	6
合計		241	3	331	71	646	360	158	518	1164

主な進学先

(令和3年4月現在)

国公立大学 120名		(医学科 19)	
東京大学 7	大阪大学 1	北海道大学 2	筑波大学 4
東京医科歯科大学 (医学科 1)	京都大学 (医学科 1)	東北大学 (医学科 0)	三重大学 (医学科 13)
名古屋大学 (医学科 1)	福井大学 (医学科 0)	神戸大学 (医学科 2)	広島大学 (医学科 0)
私立大学 863名		(医学科 37)	
慶應義塾大学 10	中央大学 21	関西大学 12	南山大学 8
明治大学 8	北里大学 4	近畿大学 51	中京大学 27
早稲田大学 13	上智大学 3	同志社大学 26	名城大学 39
東京理科大学 29	立命館大学 61	愛知医科大学 9	法政大学 3
青山学院大学 7	東海大学 6	京都産業大学 6	龍谷大学 25
関西学院大学 7	愛知大学 34	皇學館大学 73	鈴鹿医療科学大学 61
短期大学 76名			
高田短期大学 43	三重短期大学 19	修文大学短期大学部 4	名古屋文化短期大学 3
専修学校 97名			
三重看護専門学校 12	津看護専門学校 5	ユマニテク医療福祉大学校 7	松阪看護専門学校 5

事業実績の概要

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況

令和2年度は高田学苑寄附行為に基づき、計4回の理事会、3回の評議員会を開催しました。また、高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。令和2年度に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

理事会	第1回	令和2年 5月29日(金)	令和元年度決算(案)の承認について 任期満了に伴う監事の選出について
	第2回	令和2年 5月29日(金)	令和元年度決算(案)の承認について 学校法人高田学苑勤務規則の一部改正(案)について
	第3回	令和2年11月 6日(金)	令和2年度第1回収支補正予算(案)について 高田短期大学学則の一部改正(案)について
	第4回	令和3年 3月26日(金)	令和2年度第2回収支補正予算(案)について 令和3年度収支当初予算(案)について 学校法人高田学苑給与規程の一部改正(案)について
評議員会	定 時	令和2年 5月29日(金)	令和元年度決算(案)の承認について 任期満了に伴う高田学苑理事の選任について
	臨 時	令和2年11月 6日(金)	令和2年度第1回収支補正予算(案)について
	定 時	令和3年 3月26日(金)	令和2年度第2回収支補正予算(案)について 令和3年度収支当初予算(案)について
監事会	決算期	令和2年 5月27日(水)	令和元年度短期大学及び中高等学校教学監査 令和元年度事業実績報告 令和元年度決算審査関係 質疑応答
	上半期	令和2年10月28日(水)	令和2年度短期大学及び中高等学校概要報告 令和2年度第1回補正予算書及び現預金状況 令和2年度事業実績報告(中間) 質疑応答及び実査
内部監査委員会	第1回	令和2年 5月22日(金)	令和元年度短期大学及び中高等学校教学監査 令和元年度事業実績報告 令和元年度決算概要報告 質疑応答
	第2回	令和2年10月23日(金)	令和2年度短期大学及び中高等学校概要報告 令和2年度事業実績報告(中間) 現金、預金及び有価証券の状況 学苑管理運営等について

監査法人監査報告

監査法人監査		監査法人名：五十鈴監査法人	
4月 6日（月）現金、通帳、証書の実査		12月 4日（金）令和2年11月までの取引記録	
5月20日（水）令和元年度決算監査①		2月22日（月）令和3年1月までの取引記録	
5月21日（木）令和元年度決算監査②		2月24日（水）令和3年1月までの短大取引記録	
6月 2日（火）令和元年度決算監査③		3月 3日（水）令和3年2月までの取引記録	
9月29日（火）令和2年8月までの取引記録			

安全管理への取り組み

AED（自動対外式除細動器）設置（10台）

短期大学	
1号館 1階正面玄関	体育館 2階ホール
中・高等学校	
本館 正面玄関（地域住民への対応）	西グラウンド管理棟 1 2階管理室
4号館 1階保健室	西グラウンド管理棟 2 2階管理室
第1体育館 2階体育教官室	西グラウンド厩舎棟 1階管理室前（外部）
多目的グラウンド クラブハウス横倉庫	第3体育館 1階ロビー



地域避難所（体育館）の指定・防災倉庫の設置

高田学苑は津地域避難所として指定されています。これに伴い短期大学及び中・高等学校に防災倉庫を設置し、備蓄品の保管をしています。

生徒・教職員は勿論のこと、地域住民の皆様方の災害時における危険回避のための避難が円滑に行われるように、避難場所の周知を行っています。



非常食等の備蓄

東海地域は、東海・東南海・南海の複合地震の発生リスクに対する懸念も高く、また近年では、台風や豪雨による風水災害が全国各地で頻発しており、いつ、どこで起こるか分からない災害に備えるべく、本年度も新入の学生生徒分の非常食等備蓄品「白い小箱」を購入しました。

この「白い小箱運動」は単なる非常食等の備蓄に留まらず、小箱の詰め込み・搬入作業を行う障がい者の方々の就労支援や、非常食等備蓄品を学生生徒が卒業時に寄付する事で、海外で援助を必要としている人たちや周辺地域の方々への援助など、社会貢献活動として意義のあるものとなっています。



緊急地震速報受信システムの運用

平成22年12月より中・高等学校及び短期大学に緊急地震速報受信システムを導入しています。これは震度5弱以上の地震が発生した場合、津地区に大きな揺れが到達する前に、校内に一斉放送で知らせることにより、生徒及び教職員の安全を確保するものです。

防災訓練では実際にこのシステムを利用して、震度5弱の地震を想定した放送を流し、生徒・教職員及び地域住民の方の避難訓練に役立てています。



ポケット防災ガイドの配布

大規模な地震が発生すると予想されている昨今、地震発生時に学生生徒及び教職員がスムーズに避難できるように災害発生時の対応をマニュアル形式で記載した名刺サイズの防災ガイドを、短期大学・中高等学校別に作成し、新入生と本年度採用教職員に配布しました。

近年は地震のみならず台風や大雨などによる甚大な被害も全国各地で起きていることから、地震・津波・風水害・火災それぞれに対応できるよう色分けをして記載しています。

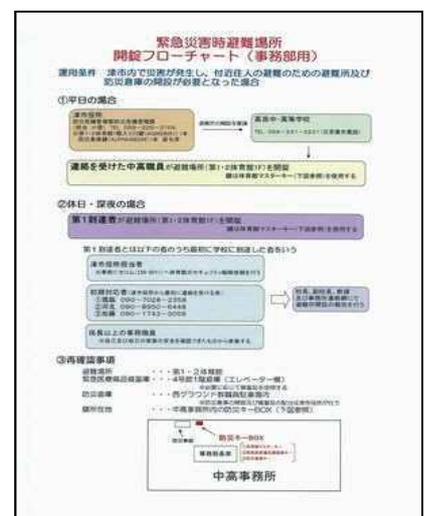
2021年3月には東日本大震災から10年の節目を迎えるということもあり本学としても更なる防災意識の向上に向け、防災ガイドの見直しを図ります。県が運営する防災情報サイトである「防災みえ」の情報更新や校舎周辺の津波被害想定マップを追加するなど情報更新を行い、更に見やすくすることで生徒が活用しやすいようにしました。学生生徒及び教職員はこの防災ガイドを常に携帯し、今後災害発生時の対応に役立ててくれるよう啓蒙活動にも力を入れていきます。



緊急災害時避難場所開設フローチャート

中・高等学校が津市の地域防災一次避難所に指定され、防災倉庫が設置されたことにより、高田学苑においても周辺地域の避難場所としての責務に応える必要があります。

緊急災害時の混乱が予想される状況において、迅速に避難所を開設するために、「緊急災害時避難場所開設フローチャート」を掲示しています。このチャートを事務職員の意識付けに役立て、緊急災害時における迅速な避難場所の開設に役立てていきたいと思えます。



非常食等備蓄品（白い小箱）の寄付

本学苑では、日本非常食推進機構と締結した「災害用物資を活用した防災活動に関する協定」に基づき、学生・生徒が卒業時に白い小箱を寄付することで地域の方々や食糧援助を必要とする海外等へ援助を行う「白い小箱運動」に参加しています。

毎年継続的に行っている白い小箱の寄付ですが、今年度は社会



福祉法人三重県厚生事業団へ261個、津市健康福祉部へ189個、松阪市健康福祉部へ355個、三重県子ども・福祉部へ200個の寄付をしました。毎年、短大自治会の学生や中高生徒会の生徒が市や事業団等の代表者の方を訪問し直接手渡しをしていましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により訪問は自粛となりましたが、各寄付先から礼状を頂いたことは学生・生徒に周知され、自身たちの活動が地域社会へ貢献していることを自覚する機会となりました。寄付した白い小箱はそれぞれの機関から障がい者及び児童養護施設や生活困窮者へ届けられます。



新型コロナウイルス感染症対策

教職員の労働体制

国内での感染拡大に伴い、3月2日に政府より全国の小・中・高等学校へ一斉臨時休校が要請され、また4月16日からの全国的な緊急事態宣言の発令を受けて本学としても5月31日までを臨時休校としました。教職員については新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から密閉・密集・密接の3密を避けるため、時短勤務及びテレワークへと変更し、教職員の出勤が最小限となるよう対応を行うとともに出勤日数に関わらず休業補償をしました。また、8月以降は収束傾向にあった感染状況が11月から急速に再拡大し、年明け1月には首都圏や隣県においても緊急事態宣言の対象区域となり、三重県としても警戒宣言が出されました。これに伴い、教職員の感染防止対応と入試の実施にあたり、入試の準備期間である試験日前の1週間を臨時休校とし厳格な感染予防対応を行いました。

健康観察

文部科学省より示されている新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドラインに基づき、教職員・生徒ともに学習支援アプリ「Classi」を使用して日々の健康管理を行っています。スマートフォンやパソコンからアクセスし、「体温」、「体調」、「家族の発熱」の3項目について回答します。回答データは一括して集計管理され、日々の状況を確認しています。



教職員へのマスク支給

新型コロナウイルス感染症予防のひとつとして、外出時のマスク着用や手指消毒用アルコールによる消毒が励行されています。国内で流行が拡大した3月からマスクや手指消毒用アルコール等の流通が少なくなり、入手が困難な状況が続いていたことや無症状の感染者もいることから、個人が油断せず感染を防ぐ意識を持つことが大切であるため、常勤の教職員全員にマスク1箱を学苑より配布しました。



教職員の健康管理体制

健康診断・任意検診

本学は平成23年度より夏期休暇中に健康診断を実施しています。令和2年度は8月8日（土）、11日（火）、17日（月）の3日間で開催しました。学校保健安全法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた検査項目を遵守し、教職員213名が受診しました。コロナ禍での検診となりましたが、三重県健康管理事業センターの協力のもと3密を避け十分な感染防止対策をしたうえで充実した検診を実施することができました。これまでの胃・大腸・前立腺・卵巣がん検査や腹部エコーや乳房エコーは任意で個別もしくはセット受診を継続し、今年度としてはこれに加えて膵臓がんリスクを測定するCA19-9検査や消化器系がんリスクを測定するCEA検査といった血液検査、そして胃炎や胃がんリスクとなるピロリ菌検査が任意で受診可能となりました。また、昨年度からの取り組みである巡回型人間ドックについても昨年を上回る受診希望がありました。



より詳細な検査を受けることで教職員が自身の健康について向き合う機会となるよう努めています。検査結果は個人に直接通知され、教職員の健康管理に役立てると共に、この結果をもとに高田学苑産業医である岩崎病院に健康管理に役立つ適切な指導・助言を行っていただいております。

ストレスチェック

労働安全衛生法の改正により平成27年12月から事業所に義務付けられ、メンタルヘルス不調を未然に防ぐ目的から今年度は9月1日（火）より一ヶ月間、ストレスチェックをウェブ上で実施しました。教職員は質問項目に回答し、結果は産業医の先生にデータで送られ、医師などの実施者がストレスの程度を評価し必要に応じて教職員自身のストレスへの気づきを促すとともに職場環境の分析と改善に繋がっていきます。

インフルエンザ予防接種

平成28年度から毎年実施しております学苑内での予防接種ですが、今年度も三重県健康管理事業センターに来校いただき、11月9日（月）、11月10日（火）の2日間にて実施しました。予防接種の費用についてはこれまで同様に学苑が一部負担し、希望の130名が接種を受けました。

教職員の表彰

特別表彰

中・高等学校	10月28日（水）	計 2名
--------	-----------	------

永年勤続表彰

短期大学	11月 9日（月）	計 1名
------	-----------	------

10年勤続	1名	
-------	----	--

中・高等学校	10月28日（水）	計 22名
--------	-----------	-------

35年勤続	2名	25年勤続	6名
-------	----	-------	----

20年勤続	4名	15年勤続	6名
-------	----	-------	----

10年勤続	4名		
-------	----	--	--

教職員の異動状況

令和2年度に採用・退職となった教職員は以下のとおりです。

		採 用			退 職	
		新規採用	再雇用	任用替	再雇用	完全退職
短期大学	教授		2		1	1
	准教授					
	助教					
	本務職員	1		2		
	特任教授					
	特任講師	1				
	特任助教					
	嘱託職員	2				1
	非常勤職員					
中・高等学校	教諭	1	1	10	5	
	本務職員			2		1
	ALT			1		
	講師					
	講師嘱託	5				
	嘱託職員	2				1
	非常勤講師	2	5			14
	非常勤職員	1				1

給付型奨学金・授業料等減免（助成）

高田学苑では、保護者や学生の経済的な負担を軽減する目的から、各種奨学金・授業料等減免制度を設けています。なお、これらの奨学金は給付型であり、すべて返済不要です。

高田短期大学介護福祉士就労予定者奨学金	
対 象	キャリア育成学科介護福祉コース学生
目 的	建学の精神に照らし、特に学業・人物に優れた学生で卒業後介護施設に就職する予定であるすべての学生（外国人留学生を除く）を支援する。
決定者	14名（1年生3名、2年生11名）
奨学金額	2,800,000円（一人あたり年額20万円給付）
高田短期大学奨学金私費外国人留学生授業料等減免措置	
対 象	高田短期大学に在学する私費外国人留学生
目 的	授業料・施設設備整備費・教育充実費等の経済的負担を減免する。
決定者	30名（減免30名（減免率50%））
奨学金額	11,980,000円

短期大学入学金免除制度

高田高等学校を卒業し高田短期大学に入学する場合、入学金（28万円）が免除される制度もあります。過去3カ年の高田高等学校からの進学者数は以下のとおりです。

	平成30年度入学	令和元年度入学	令和2年度入学
人 数	38名	37名	36名

高田学苑 クラブチーム事業報告

2020年度 みえ高田FC

平成27年度に県内の中学生世代を対象とした女子サッカーのクラブチームとして設立され、中学・高校・短期大学のおおむね8年間の長期的期間の中でサッカーを通じて優れた人材を育成し、県内の企業へ排出するとともに、短期大学と企業の連携により次世代のサッカー選手育成を目的として活動を続けています。平成28年度より県内リーグ等へ参戦し、平成30年度には県内リーグで上位にランクイン、また全日本U-15女子サッカー選手権大会の東海大会に出場するまでに成長しました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症による影響で大会やリーグ戦が中止となり、6月から練習が再開され、ようやく8月からリーグ戦や大会が順次開催となりました。試合へのモチベーションを保つことも難しいシーズンとなりましたが、リーグ戦では第2位、大会では白星を挙げており、来年度に向けて更に勢いをつけていきます。

【 試合日程・試合結果一覧 】

大会名	対戦相手	日時	結果
U-15女子サッカーリーグ2020三重	スズカグローリー・伊勢FC Puro合同チーム	8月1日(土)	○ 11-0
第25回全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会三重県予選 準決勝	伊賀FCノーステライト	9月20日(日)	○ 2-0
第25回全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会三重県予選 決勝	楠クラブレディース	9月22日(火)	● 0-3
2020年三重県女子サッカーリーグ第1節	ヴィアティン三重レディースユース	10月17日(土)	○ 3-0
2020年三重県女子サッカーリーグ第2節	高田高校	10月18日(土)	▲ 1-1
2020年三重県女子サッカーリーグ第3節	鈴鹿グローリー	11月8日(日)	○ 1-0
2020年三重県女子サッカーリーグ第4節	伊勢FC Puro	11月15日(日)	○ 7-0
2020年三重県女子サッカーリーグ第5節	伊賀FCノーステライト	11月29日(日)	▲ 1-1
JFALレディースサッカーフェスティバル	津田学園高校	令和3年1月9日(土)	○ 2-1
JFALレディースサッカーフェスティバル	四日市南高校B	令和3年1月9日(土)	○ 12-0
2020年三重県女子サッカーリーグ第6節	四日市西高校	令和3年1月10日(日)	○ 6-0
U-15女子サッカーリーグ2020三重	楠クラブレディース	令和3年1月16日(土)	▲ 1-1
U-15女子サッカーリーグ2020三重	伊賀FCノーステライト	令和3年2月7日(日)	○ 2-1
U-15女子サッカーリーグ2020三重	ルピナ四日市	令和3年2月23日(火)	○ 2-0
U-15女子サッカーリーグ2020三重	ヴィアティン三重レディースユース	令和3年3月13日(土)	○ 7-0



2020年度 みえ高田VC Sala

平成28年度に県内初の社会人バレーボールチームとして発足し、2021年の三重とこわか国体への出場も視野に入れ、大学卒業後も活躍できる社会人選手を育成すると共に県内の女子バレーボールの発展を目標に活動を続けています。春高バレー三重県大会で幾度も優勝へ導いた実績のある秋津修監督の指導のもと



活動し、昨年度は全国大会3位に輝くといった成績を収めるまでに成長しましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により試合はすべて中止となり、練習を積み重ね翌年度へ備える1年となりました。翌年に迫る三重とこわか国体やVリーグ入りを目指し、男子サッカー・バレーボールチームを運営するヴィアティン三重と統一チームを作り活動を再開させていきます。

時代・社会の変化に即応した取り組み

1 学士力向上を目指した教育課程の展開

共通教養科目の充実に向けて

「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」で示した「共通到達目標（全学的学修成果）」に対応し、教養教育の充実に図るため、令和元年度から共通教養科目として新たに自然科学分野及び社会科学分野の2科目を追加し、計14科目を設置しました。また、初年次教育の一環として開設した「スタートアップゼミナール」において、各学科・コースがそれぞれ教育内容を工夫するとともに、共通教養科目検討委員会等において、不断の見直し・検討を行っています。

学則の変更（新教育課程の実施・作成）

子ども学科について、令和元年度入学生から、文部科学省教育職員免許法等の改正及び厚生労働省保育士養成課程の見直し等を踏まえて作成した新教育課程を実施しています。

キャリア育成学科介護福祉コースについては、令和3年度入学生から、「厚生労働省介護福祉士養成課程における教育内容の見直し」に対応した新教育課程を実施します。

新型コロナウイルス感染症への対応

令和2年度当初より本格的な感染拡大となっている新型コロナウイルス感染症への対策として、一部授業を遠隔授業として配信、対面授業時間割を柔軟に変更し、感染症への対策とともに学生本位となる授業の効果的な実施による学修機会の確保・両立に努めています。

2 自己点検・自己評価の取組

相互評価・認証評価

昨年度、大阪城南女子短期大学の訪問調査を受けました。今年度は大阪城南女子短期大学への訪問調査実施を予定しておりましたが、コロナ禍の影響により、対面での調査が実施できず、ZOOMによるオンライン会議によって相互評価を以下のとおり実施しました。

日時 令和3年2月22日（月）9：00～15：30

内容 オンラインによる面接調査、オンラインによる学内視察

なお、令和3年度に相互評価報告書を作成する予定です。

また令和3年度に第3クール目となる認証評価を受けます。コロナ禍の影響により、オンライン会議形式として秋頃に実施予定です。

3 主体性・協調性を育む短大生活支援

(1) 新入生宿泊研修

日時 4月22日（水）～4月23日（木）1泊2日

会場 COCOPA RESORT CLUB 白山ヴィレッジゴルフコース（津市白山町川口6262）

研修内容 **令和2年度は中止**

(2) 学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、2年生の執行部役員に加え、1年生から学生自治会サポートメンバーを募り、各学生が自らの役割を考えて行動し、課題を解決していく「異学年共同コ

「コミュニティ」の形成を目指しています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して種々の行事を企画していますが、今年度は多くの行事がコロナ禍により中止や縮小となりました。

① T J C 祭 (スポーツ大会)

日 時 5月16日(土) 10:00~15:00
場 所 本学体育館
内 容 **令和2年度は中止**

② ミスタードーナツ移動販売・抽選会

日 時 7月13日(月)・14日(火)
場 所 2号館1階学生ロビー
内 容 ミスタードーナツの移動販売を本学で行いました。また購入者を対象に学生自治会が抽選会を行いました。



③ 第54回高短祭

日 時 10月18日(日)
内 容 今年度はコロナ禍により一般公開せず半日に短縮して開催しました。
イベントは吉本芸人によるお笑いライブと恒例の学生自治会ビンゴ大会のみを、本学の学生および教職員のみを対象に実施しました。



④ クリスマス抽選会

日 時 12月21日(月)・22日(火) 9:00~16:00
場 所 2号館1階ロビー
内 容 食堂抽選会が中止となったので、学内売店で購入した際のレシートが抽選券となる抽選会を開催しました。

⑤ 新年会 (ビンゴ大会)

日 時 令和3年1月18日(月) 14:40~16:10
場 所 本学講堂
内 容 例年の新年会の規模を縮小し、平日にビンゴ大会を開催しました。



(3) 学長と学生自治会執行役員との懇談会

日時 7月20日(月) 14:40~

場所 第4会議室

出席者 梅林学長、執行委員12名、教職員10名

内容 学生からの要望を聴取し、改善策について意見交換しました。

- 1) 高短祭について
- 2) 学業及び学生生活全般に関する意見交換



日時 令和3年1月5日(火) 16:30~

場所 121教室

出席者 梅林学長、執行委員12名、次年度役員13名、教職員9名

内容 学生からの要望を聴取し、改善策について意見交換しました。

- 1) 授業評価改善について
- 2) 学業及び学生生活全般に関する意見交換

4 キャリア教育・キャリア支援の充実

キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて、教養科目・専門科目の各授業と進路ガイダンス、プレ就職講座、就職講座を関連づけ、キャリア教育を推進しています。

2020年度 入学生(1年生)	子ども学科	キャリアスタディ	8回実施		
	キャリア育成学科				
	オフィスワークコース	プレ就職講座	2回実施	就職講座	6回実施
	介護福祉コース	プレ就職講座	1回実施	就職講座	4回実施
2019年度 入学生(2年生)	子ども学科	就職講座	5回実施	公務員二次・三次対策講座(複数)	
	キャリア育成学科				
	オフィスワークコース	就職講座	3回実施		
	介護福祉コース	就職講座	3回実施		

公務員試験対策

(1) 教養試験対策講座（受講者数）

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
1年生	79人	90人	83人	80人	130人
2年生	50人	50人	46人	53人 (50人受験)	32人 (32人受験)

※令和2年度入学生(1年生)は、9月9日(水)から令和3年3月25日(木)まで23回実施

※令和元年度入学生(2年生)は、令和2年3月9日(月)から8月18日(火)まで18回実施

(2) 保育専門対策講座 2年生 4月11日(土)～8月19日(水) : 計10回実施

1年生 令和3年1月12日(火)～3月26日(金) : 計10回実施

(3) 数学対策講座〔高田高校教員：2年生(4月～ 計7回実施)、

1年生(9月～ 計14回実施)〕

学生への就職支援

キャリア支援センターには、キャリアカウンセラー1名、キャリアサポーター5名(内1名は非常勤講師、親子ひろばスタッフ兼務)が配置され、センター長と庶務担当を合わせて総勢8名の職員が、学生の進路相談や就職活動などについてきめ細やかな支援を行っています。



卒業生への支援と早期離職の防止対策

生涯キャリア支援を旗印に、離職や仕事上の悩みなどで相談に来たりする卒業生に対して、卒業後も継続して支援を行っています。

早期離職防止対策については、2月18日(木)各学科コース別に指導しました。

「キャリアカルテ」の活用等による協働型キャリア支援の推進

毎月1回(年13回)、キャリア支援委員会を開催して、各学科コースとキャリア支援センターの教職員が、一人ひとりの学生に対するキャリア支援のあり方について協議しました。また、日常的には就職支援システム「キャリアカルテ」を核とした「高短キャンパスネット」(Web)を活用して、教職員間の情報共有と意思疎通を図っています。



5 学生募集と高大交流事業

(1) 高大教育交流事業

今年度の交流事業の実施回数は下記のとおりです。

- ① 出張ガイダンス(協定校へ出向いて学校ガイダンスを行う) 38回(17校)
- ② 出前(模擬)授業(協定校へ出向いて出前授業を行なう) 15回(8校・15講座)
- ③ 特別授業・授業見学・施設見学など(本学の授業に出席、本学の施設・設備見学) 4回(3校・8講座)



(2) 高大教育交流連絡協議会

令和3年2月18日(木)に、令和2年度第1回高大教育交流連絡協議会を開催しました。三重県内の「高大教育交流協定校」等15校および三重県教育委員会事務局高校教育課キャリア教育班、本学教職員が参加しました。今年度より入試改革で入試の時期や内容が変更となりましたが、各校でどのように進路指導が行われてきたかグループに分かれて意見交換していただきました。

(3) オープンキャンパス実施結果

① 日時

第1回	6月13日(土)	13:00~16:00	
第2回	7月12日(日)	13:00~16:00	
第3回	8月22日(土)	13:00~15:00	(今年度、新規事業)
第4回	10月31日(土)	14:00~16:00	(今年度、新規事業)
第5回	12月20日(日)	13:00~15:00	(今年度、新規事業)
第6回	令和3年3月14日(日)	13:00~15:30	

② 参加者数

	第1回 6/13(土)	第2回 7/12(日)	第3回 8/22(土)	第4回 10/31(土)	第5回 12/20(日)	第6回 3/14(日)	合計
子ども学科	96名	140名	97名	—	43名	82名	458名
キャリア育成学科 オフィスワークコース	36名	40名	35名	17名	6名	18名	152名
キャリア育成学科 介護福祉コース	5名、 留学生 0名	7名、 留学生 20名	5名、 留学生 5名	2名、 留学生 0名	3名、 留学生 0名	2名、 留学生 0名	24名、 留学生 25名
計	137名	207名	142名	19名	52名	102名	659名

※追加開催：留学生オープンキャンパス 9/4(金)20名、
9/17(木)26名(今年度、新規事業)

③ 実施スケジュール

13:00～13:25 全体説明会

13:30 (14:00)～16:00 (15:00)

各学科・コース説明・体験・相談



(4) 高大教育交流協定締結

① 7月2日(木)、飯南高等学校と本学との間で、「高大教育交流協定」の調印式が行われました。本学と高大教育交流の調印式を実施したのは、飯南高等学校が15校目です。



② 11月20日(金)、名張高等学校と本学との間で、「高大教育交流協定」の調印式が行われました。本学と高大教育交流の調印式を実施したのは、名張高等学校が16校目です。



③ 令和3年3月3日(水)、皇學館高等学校と本学との間で、「高大教育交流協定」の調印式が行われました。本学と高大教育交流の調印式を実施したのは、皇學館高等学校が17校目です。



6 外国人留学生支援について

(1) 外国人留学生支援室の増強

- ・ 留学生の増加への対応と更なる学生生活支援を目的として、留学生アドバイザーを14名から16名に増員しました。
- ・ 留学生アドバイザーを対象として、定期的に留学生支援室会議を行い、ビザ更新に関する情報、奨学金など金銭面支援の状況、納税及び社会保険料などの支払いに関する情報、日本語能力検定試験など学習状況について、情報の共有化を図っています。

(2) 留学生ミーティングの実施

留学生と留学生支援室とのミーティングを次の日程で4回実施しました。

第1回 6月10日(水)、12日(金)・・・新学期の留意事項、授業料等

第2回 8月6日(木)、7日(金)・・・夏期長期休暇の留意事項、アルバイト時間等

第3回 令和3年1月19日(火)(1年生)・・・行事予定、及び長期休暇中の留意事項

12月1日(火)(2年生)・・・国家試験、及び在留資格の変更について

第4回 令和3年2月18日(木)(2年生)・・・4月までの留意事項

(3) 留学生バスツアー

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

(4) 授業内での日本語支援

介護福祉コースの授業に2人の日本語補助員を配置しました。介護や医療の専門用語等の説明が留学生に好評でした。

(対象授業科目)

1年生・・・「人生と仏教Ⅰ」「心と身体Ⅰ」「人間発達の理解Ⅰ」

2年生・・・「社会保障」

(日本語補助員)・・・伊藤 由香、前田 恵里

(5) 日本語教育科目のクラス分け制度の導入

より効果的な日本語学修効果を図ることを目的として、日本語教育科目を日本語能力によりAクラス、Bクラスの2クラスにクラス分けしました。

- ・日本語会話Ⅰ、Ⅱ・・・Aクラス担当 石川、Bクラス担当 伊藤
- ・日本語表現Ⅰ・・・Aクラス担当 前田、Bクラス担当 石川
- ・日本語作文・・・Aクラス担当 石川、Bクラス担当 前田

(6) 日本語支援オフィスアワー

各学年の空き時間に各留学生が日本語補助員に個別に課題を持参し、質問できる日本語支援オフィスアワーを導入しました。

(前期) 1年生 金曜日1限、2年生 水曜日1限

※後期は留学生の時間割に余裕がないので実施せず。



(7) 食料品の無料配布

新型コロナウイルスでアルバイトが減っている留学生に対して、青果市場で余ったものや教職員の家庭内菜園による米や野菜の無料配布を行いました。

地域への社会貢献事業

地域連携施設

高田短期大学公開講座

「ストレスへの対処法 ～考え方を改めて上手につきあおう～」

開催日 7月4日(土)

場 所 大講義室

参加者 37名

受講料 無料

講 師 本学カウンセラー 橋本 景子

内 容 ストレスは誰にでもあるものとまずは受け止めて、「考え」を変えて乗り切る方法を提案しました。豊富な実例を挙げながらご自分に合った方法を興味深く学んでいただきました。



「みんなで楽しむ絵本の時間」

開催日 10月24日(土)

場 所 図書館グループワーク室

参加者 18名

受講料 無料

講 師 育児文化研究センター研究員 岩附 啓子

内 容 多くの絵本の中から厳選したものを取りあげて、楽しみ方・遊び方などを学んでいただきました。またエリア内にずらりと配架した絵本を手にとって楽しんでいただきました。

「どうする人生のしまいかた」

開催日 11月7日(土)

場 所 講堂

参加者 48名

受講料 無料

講 師 キャリア育成学科 准教授 福田 洋子

内 容 超高齢化が進むなかで、自分らしく生き、家族や友人、自分にとってよりよい終末をむかえるために、すべきことは何か、多くの観点から問題提起し学んでいただきました。

みえアカデミックセミナー2020

三重県内にある全ての大学・短期大学・高等専門学校が有する学びと県民をつなぐ三重県の高等教育機関の連携事業で、各校の特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーが毎年開催されております。

本学は次の講座を開講し、38名の受講がありました。

日 時 8月19日(水) 13:30～15:00

会 場 三重県総合文化会館1F レセプションルーム

テ ー マ 「育ちに寄りそい・支えるとは～心理学的理解から～」

講 師 子ども学科 教授 山口 昌澄



教員免許状更新講習

昨年度に続き文部科学省の認可を受け、主に幼稚園教諭のための免許状更新講習5講座（計30時間）のうち必修領域2講座を7月に実施しました。今年度は新型コロナウイルスの影響で遠隔授業による開催も検討いたしましたが、感染対策に留意した上で対面での講習を実施いたしました。

しかし受講人数については新型コロナウイルスの影響もあり、定員80名のところ61名にとどまりました。

仏教教育研究センター

研究会の開催

研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

高田派中興の祖である真慧上人のご遠忌を記念して、上人が著された『顕正流義鈔』の研究書を発刊することを目的に毎月1回研究会を開催しています。これまでに原文と現代語訳との対照を行い、語句説明を頭註、補註形態で行ってきました。そして昨年度に引き続き、令和2年度も補註の完成に向けて作業を進めました。

仏教教育研究センター公開講座（高田本山教学部 共催）

地域の方々に仏教に触れる機会の提供を目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山の高田会館ホールにて開講しました。なお、いずれも受講料は無料です。

第1回	日時	10月21日（水） 13:30～15:30	受講者	51名
	題目	中世三重の寺院と真宗の展開 ～津周辺を起点として～		
	講師	太田 光俊 氏（三重県総合博物館学芸員）		
第2回	日時	11月16日（月） 13:30～15:30	受講者	33名
	題目	仏教の慈悲、真宗の慈悲－仏教徒の福祉活動を通して考える－		
	講師	金信 昌樹 研究員（仏教教育研究センター研究員、高田短期大学非常勤師）		

仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を以下の日程で学んでいただく予定でしたが、令和2年度はコロナ感染拡大防止のため中止になりました。

日時	8月17日（月）～8月21日（金） 9:00～17:50		
対象	寺族及び一般者		
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）		
教科 講師	「仏教学」	栗原 廣海	研究員（本学前学長）
	「仏教史」	金信 昌樹	研究員（本学非常勤講師）
	「真宗学」	松山 智道	研究センター長（本学特任講師）
	「真宗史」	清水谷 正尊	研究員（本学非常勤講師）
	「高田の歴史と法宝物」	新 光晴	研究員（真宗高田派本山専修寺宝物館主幹）

仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施するもので、仏教や真宗に関するより専門的な知識を学んでいただくために、以下の日程で年間10回の講座（試験日として11回目あり）を予定していましたが、令和2年度はコロナ感染拡大防止のため中止になりました。

なお、この専門講座における講座科目は隔年で内容が変わり、全10科目（隔年で5科目）を

開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度に則った「履修証明プログラム」として開講し、全10科目の講座を修了された方には学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。

日程	4月24日(金) 5月29日(金) 6月26日(金) 7月31日(金) 9月25日(金) 10月30日(金) 11月27日(金) 12月18日(金) 1月29日(金) 2月26日(金) 3月5日(金) 9時00分～17時50分(50分の昼休憩あり)
対象	寺族および一般(真宗高田派の教学を学びたい方)
受講料	無料(但し、テキスト代は実費負担)
教科講師	「仏教学講読Ⅱ」 清水谷 正尊 研究員(本学非常勤講師) 「真宗学概説」 栗原 廣海 研究員(本学前学長) 「真宗学講読Ⅱ」 金信 昌樹 研究員(本学非常勤講師) 「真宗学講読Ⅳ」 北島 恒陽 研究員(四日市大学非常勤講師) 「真宗史購読」 栗原 直子 研究員(誓元寺衆徒)

運営委員会開催の状況

第1回	4月9日(木) 16:30～16:50	○専門講座の中止について ○基礎講座について
第2回	6月11日(木) 16:30～17:00	○基礎講座について ○公開講座について
第3回	7月16日(木) 16:30～17:15	○基礎講座について ○公開講座について
第4回	9月4日(金) 16:30～17:15	○基礎講座について ○公開講座について
第5回	12月2日(水) 16:30～17:00	○令和3年度センター年間行事予定について ○令和3年度公開講座講師について
第6回	2月10日(水) 16:30～17:00	○令和2年度の講座について ○令和3年度の講座について

仏教行事委員会

学内仏教行事の実施(宗祖降誕会・灌仏会・報恩講が地域公開行事)

	新入生本山参詣	宗祖降誕会	灌仏会
開催日	4月2日(木)	5月25日(月)	6月15日(月)
講師	梅林 久高(本学学長)	松山 智道 (仏教教育研究センター長・ 子ども学科特任講師)	清水谷 正尊(非常勤講師)
参加者	中止	1・2年ともに遠隔放送 363名視聴	2年生が遠隔放送 289名視聴

	追弔会	報恩講
開催日	10月26日(月)	12月14日(月)
講師	鷺尾 敦(教授)	梅林 久高(学長)
参加者	219名(レポート提出者数)	193名(レポート提出者数)

育児文化研究センター

1. 地域子育て支援事業

1. 地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は10年目を迎え、津市を中心に子育て親子の皆さんにご利用いただいています。スタッフの見守りの中、親子が、子ども同士が、親同士がゆったりした雰囲気遊び、ふれあい、交流を深める場として開催しています。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止という点から6月まで閉鎖をし、7月からは上限10組という制限を設けて再開をしました。体調チェックや手指消毒など入室前の規制がある中でも、参加される親子があり、このような時だからこそ子育て支援の場が求められていることを感じました。

ボランティア学生も例年より人数を減らして9月より募集をしました。

まだ、例年よりは参加した学生数は少ないですが、学生にとっては親子にふれあえる貴重な経験ができました。

(1) 「おやこひろば たかたん」活動状況と利用者数

開催日時 月曜日・・・0、1歳児 木曜日・・・2歳児以上 10:00～12:00

場 所 育児文化室（1号館2F） 参加対象 未就園児とその保護者

令和2年度7月から3月まで、月曜日32回、木曜日35回の計67回ひろばを開設し、子どもと保護者を合わせて延べ1,077名に利用いただきました。



(2) 子育て講座 ひろば開催日（月1回）にセンター研究員を講師に子育て講座を開催しました。

講座日	テーマ	講師	参加者数
7月16日（木）	親子で笑顔！	古川 久美子	8組
8月24日（月）	学力とは何か～子どもは学校で何を身につけるのか～	寶來 敬章	2組
9月17日（木）	消費税の正体を知ろう	武藤 敦士	4組
10月12日（月）	親子で楽しむ表現遊びと手品	稲田 直子	8組
11月19日（木）	音を聴こう 音を感じよう	福西 朋子	8組
12月14日（月）	おねえさんといっしょ	青木 信子	8組
令和3年1月21日（木）	親子でリフレッシュ ～体操、遊び体験～	榊原 尉津子	8組
令和3年2月15日（月）	子どもの心の育ちを支える	山口 昌澄	7組

(3) ひろば関係研修会

○第1回ひろば関係者研修会 「乳幼児の救急蘇生について」

津北消防署から乳幼児の救急蘇生法やAEDの使用について説明を受けました。

日 時 8月20日（木）15:30～16:30

場 所 1号館育児文化室

参加者 本学教職員・ひろばスタッフ 計7名



○第2回ひろば関係者研修会 「おやこひろば たかたんの取り組みについて」

ひろばスタッフ3名より今年度のコロナ禍でのおやこひろばの振り返りと今後の取り組みについての報告がありました。

日 時 令和3年1月21日(木) 13:00～14:30

場 所 1号館第4会議室

参加者 本学教職員・ひろばスタッフ 計11名

(4) おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

学生が、保育や子育て支援を学ぶサークルとして結成し3年目となりました。今年度は1年生が6名入会し9名の学生で活動しました。7月からのひろばの開催と共に学生の活動もスタートし、メンバーと教員により月1回のミーティングを行い、活動計画や振り返りを行いました。また、「おやこひろば」のスタンプカード等を空き時間や持ち帰りで作成しました。

*11月23日(月・祝):「ホリデーひろば」に実施したリースづくりコーナーの準備作成、当日参加できるメンバーは親子が楽しめるように活動

*令和3年3月4日(木):ひろばの親子に劇「おおきなかぶ」を披露

(5) 「おやこひろば たかたん」HP

「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後のご案内をしています。

「活動紹介」はブログ形式で写真とともに、ひろば開催日毎にアップをしています。また、プリントアウトして育児文化室前にも掲示しています。

2. 子育て相談

地域への子育て支援の事業として、育児に関する心配や不安を相談できる個別対応の子育て相談を予約制で行っています。6月～3月までに1件の相談利用がありました。

相談内容	担当者	基本相談日
発達相談	千草 篤磨	第4月曜日 14時
子どもの食	鷺見 裕子	第3金曜日 ①13時②14時
子どもの健康	長倉 里加	第2水曜日 11時
子育て・教育	青木 信子	第4金曜日 13時

II. 研究会

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

1. 定例研究会(年3回)

第1回 第56回定例研究会 7月7日(火) 16:30～(第4会議室) 参加者23名

○研究報告 榊原 尉津子研究員

「すくすく子育てに見る養育者の関心事の変化ー時代背景・乳幼児の事件・事故の視点から」

第2回 第57回定例研究会 10月29日(木) 16:30～(図書館) 参加者16名

○研究報告 古川 久美子研究員

「自発的にあそぶ学ぶ子どもを育む保育環境づくりーY市保育園・幼稚園における取組からー」

第3回 第58回定例研究会 令和3年2月8日(月) 16:30(図書館) 参加者20名

○研究報告 グループ研究①

「求められる子育て支援を探る(1)ー妊婦のアンケート調査を通してー」

2. グループ研究会

グループ研究①「子育て支援のひろばについて」(4名)

開催回数:7回

グループ研究②「子どもの基本的な生活習慣と育児」(7名)

開催回数:7回

グループ研究③「おやこひろばたかたんにおける学生の学びについて」(2名)

開催回数:6回

グループ研究④「野外体験保育とこれからの保育者養成」(6名)

開催回数:5回

III. 学生支援事業

平成24年度からはボランティア支援センターと連携を取りながら活動を行っています。保育・子育てに関わる地域でのボランティア活動は、学生にとって貴重な体験と学びの機会となります。今年度も参加者全員を対象に事前指導と事後報告を実施し、個々の学生の確かな学びとなるような支援に取り組んでいます。今年度は新型コロナウイルス感染症により地域や園のイベントが縮小していることや6月までは学生のボランティア活動参加を見合わせていたことなどから、ボランティア活動の実施数はありません。



IV. 広報物及び研究成果の発行

1. センターたより「いくぶん」第25号

8月末に発行しました。

2. 育児文化研究センター紀要「高田短期大学育児文化研究」第16号（令和3年3月発行）

執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文5編、調査報告3編、実践報告2編と定例研究会での研究報告要旨、4つのグループ研究会の活動報告等を掲載し令和3年3月15日に発行しました。

高田短期大学 育児文化研究第16号（2021年 3月発行）

種別	テ - マ	執 筆 者
研究論文	子育てひろば利用者の子育ての悩みに関する研究4 - 「ひろばカフェ」の実践と考察 -	稲田直子 藤重育子 前畑みち代 大山美和 笠原美穂 鷺見裕子 堀内由香里
研究論文	演習科目における遠隔授業の可能性に関する研究 - オンデマンド型授業を中心に -	林韓燮
研究論文	乳幼児の基本的な生活習慣の獲得に関する研究4 - 保育者の思いからみた獲得の現状 -	鷺見裕子 宮崎つた子
研究論文	求められる子育て支援を探る その2 - 妊婦のアンケート調査を通して（子育て支援センター編） -	長倉里加 青木信子 井澤淑子 小管千恵子
研究論文	大学内に併設された子育て支援ひろばに関する研究	藤重育子 鷺見裕子
調査報告	保育現場における新型コロナウイルス感染症に関わる対応や影響に関する調査	青木信子 金森まさ子
調査報告	企業の地域貢献活動の現状とみえこどもの城との連携・協働に関する調査	坂口幸穂 鷺見裕子
調査報告	「キッズおもちゃ・えほんサロン」における利用者を対象としたアンケート調査	藤重育子
実践報告	子育て支援者交流会事業による地域子育て環境づくりの取り組み	大野由佳 鷺見裕子
実践報告	「おやこひろば たかたん」の実践報告（6）～これからの「新しい生活様式」の中で、「おやこひろば」に求められるもの～	堀内由香里 笠原美穂 大山美和

3. 子育て情報発信

「情報誌きらきら」（隔月発刊：年6回）の育文センター担当頁「子育てライフ応援隊！一緒に子育てはじめましょ」への子育て情報を掲載。

掲載 Vol	掲載号 2年	発行 予定日	広場・相談 掲載日程	テーマ（担当）	
				子育てアドバイス	おやこひろばより（ひろばスタッフ）
50	5・6月	5/25(月)	6・7月	だいじなもの（金森）	雨の日を楽しく過ごしましょう
51	7・8月	7/10(金)	8・9月	成長を感じながら防災グッズの見直しを（長倉）	夏を元気に！夏を楽しく！
52	9・10月	9/25(金)	10・11月	子どもと一緒に毎日の食事を楽しみましょう！（鷺見）	秋を感じて楽しみましょう
53	11・12月	11/25(水)	12・1月	家族みんなで楽しもう！（古川）	音探し散歩に出かけてみよう！
54	1・2月	1/25(月)	2・3月	みえの自然であそぼう（林）	春を待つ季節に
55	3・4月	3/25(木)	4・5月	赤ちゃんへの「話しかけ」と「歌いかけ」（山本）	春ですね 深呼吸をしてみよう！

V. 地域連携事業

1. 津市つながりひろば運営委員会

- 第1回 6月25日（木） 18：00～21：00 今年度の事業詳細確認
- 第2回 11月 5日（木） 18：00～21：00 オンライン研修会について
- 第3回 12月17日（木） 18：00～21：00 オンライン研修会（遠隔）について
- 第4回 令和3年3月11日（木） 18：00～21：00 今年度の振り返りと次年度に向けて

2. みえ次世代育成応援ネットワーク

みえ次世代育成応援ネットワークに運営委員として参画し、県行政と地元企業や地域子育て団体と連携し、子育て支援活動事業に取り組みました。

(1)関係会議

- 第1回運営委員会 7月 2日（木） 15：00～17：00
内容：ネットワーク運営、今年度取り組み事業等
- 第2回運営委員会 10月26日（月） 15：00～17：00 内容：今後の活動について
- 第3回運営委員会 令和3年1月19日（火） 15：00～17：00
内容：今後の活動について

(2)「みえの子ども応援プロジェクト」第11回ありがとうの一行詩コンクール参加

ネットワーク主催事業である大切な人への「ありがとう」という気持ちをテーマとした一行詩コンクールへの参加を呼びかけ、多くの学生が応募し1名入選しました。

※今年度は子育て応援！わくわくフェスタやみえこども応援ライブ等が新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止

3. みえこどもの城連携協定による事業

本学と三重こどもわかもの育成財団との連携協定に関わる事業で、学生による親子対象イベント「たかたん あそびひろば」開催の企画立案、実施支援を行いました。

(1)第1回「たかたん あそびひろば」 10月 4日(日) 13:00~15:00

「親子で作ろう!ダンボールカホン」(昨年度末開催予定だったもの)プロの演奏家と協働の手作り楽器イベント(山本ゼミ)参加:学生10名、教員1名、プロ音楽家1名

(2)第2回「たかたん あそびひろば」 12月19日(土) 13:30~15:00

子ども学科、学生主体による子ども向けイベントの企画・運営 参加:学生37名、教員4名



4. 地域啓発事業 主催事業

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、例年行っている講演会ではなく、オンラインで子育て支援ができるものとして動画配信を行いました。

【配信内容】 動画1. COWCOW(芸人)「あたりまえ体操コロナ対策バージョン」
動画2. COWCOW(芸人)からの子育て応援メッセージ動画
動画3. 津市消防音楽隊による演奏(2曲)

【配信期間】 動画1:令和2年12月21日(月)~現在
動画2:令和3年2月26日(金)まで(契約の都合により)

【視聴対象者】 子育て関係者、教育・保育関係者、子ども学科学生

【アクセス数】 動画1:34万回(2021.3.13現在)
動画2:108回(2021.2.26現在)
動画3:ジェームズ・ロード・ピアポイント『ジングルベル』
784回(令和3年3月12日(金)現在)
嵐『Love so sweet』
985回(令和3年3月13日(土)現在)

VI. 津市委託事業

1. 津市ひろば関係者交流会事業

・アンケート調査 調査用紙配付数64件中回収数46件 回収率71.9%

今年度の子育て支援センターやひろばの状況と困りごとのアンケート調査を行い、調査結果を公表することで他の施設での取り組みを参考にする機会を作りました。

2. 津市子育て支援者事業

・動画研修 参加者43名

「コロナ禍での子育て」についての動画を作成し、希望者に発信しました。

① コロナ禍でのお母さんの悩み(インタビュー) ②家の中での遊びのアイディア ③海外の子育て事情(ニュージーランド) ④産婦人科医 柳瀬幸子先生の講話 ⑤津市からの情報

3. 津市親支援事業(子どもとの愛着形成、お母さんのリラクゼーション)

新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止としました。

4. ホットひろば事業 講師：橋本 景子（高田短期大学 非常勤講師）

乳幼児を子育て中の親を対象に、ほんのひととき子どもから離れてホットできる時間、子育て中の親同志が交流できる場として、子育てママの「ホットひろば」の開催と託児を2回行いました。また、昨年度新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止となった小学生保護者対象のひろばを10月29日（金）に予定していましたが参加希望者がなく中止となりました。

- (1) 第1回 9月24日（木） 10：00～12：00
場 所：高田短期大学 参加者5名 託児5名
- (2) 第2回 令和3年2月11日（木） 10：00～12：00
場 所：高田短期大学 参加者6名 託児3名

キャリア研究センター

1. 地域連携事業

(1) 「津市包括的協力連携協定」連携事業

一身田寺内町来訪者調査の報告会開催

令和元年度にオフィスワークコースの中畑ゼミが行った、一身田寺内町来訪者調査の報告会を7月20日（月）に開催し、一身田商工振興会、一身田寺内町の館、一身田寺内町ほっとガイド会、津市役所の方々に出席いただきました。質問も多く有り、地域の方々に関心を持って聞いていただけたと考えます。

報告書では、県外の方にもっと知ってもらうため観光協会と連携してのPRやSNSを利用したの情報発信を行うことや、若者が集まるカフェを作ること、今も残る環濠を活かした話題づくりなどを提案しました。調査結果や学生の提案が街づくりに生かされることを期待します。

(2) 一身田商工振興会と連携・協力に関する覚書を締結

9月17日（木）、高田短期大学と一身田商工振興会は、まちづくり、人材育成における重要なパートナーとして、相互に連携協力することにより、地域の発展、人材の育成に資することを目的として、連携・協力に関する覚書を締結しました。締結式には一身田商工振興会の中川会長、岡副会長が出席され、本学からは梅林学長、中畑キャリア研究センター長、河北事務局長に加え、昨年一身田寺内町来訪者調査を行った学生2名が出席しました。

今後継続的に、一身田寺内町を中心とする地域のまちづくり、高田短期大学、及び、その学生の調査・研究、教育に関して、連携・協力を行って参ります。

(3) 一身田商工振興会との連携事業

インスタグラムによる情報発信の取り組み

一身田商工振興会では平成30年度、令和元年度の一身田寺内町来訪者調査の結果を踏まえ、若者・女性の利用者が多いインスタグラムによる情報発信を行うこととなり、その発信を高田短期大学の学生にお願いしたいとの依頼がありました。このため、ボランティア学生、中畑ゼミ1年生で一身田寺内町の情報発信に取り組みました。

また、この取り組みを基にフォロワーの獲得方法やアクセス状況、フォロワーの属性などの分析を行っています。

QRコードによる街角音声案内の取り組み

QRコードによる一身田寺内町の音声案内を一身田商工振興会と一身田寺内町の館で進めており、そのナレーションを高田短大生に行ってもらいたいという依頼がありました。このため、ボランティア学生を募り、ナレーションの録音を行いました。

街角の案内板等に添付されているQRコードをスマートフォンで読み取っていただくと、高田短大生の声で案内を聞くことができます。

(4) 百五銀行・百五総合研究所との連携事業

若手社員の採用・育成・定着のためのパネルディスカッション

日時 11月16日(月) 14時40分～16時10分

場所 高田短期大学 大講義室

パネリスト ICDAホールディングス、津松菱、百五銀行の人事・採用担当者

学生パネリスト 2名

コーディネーター 中畑 裕之(キャリア研究センター長)

参加学生 オフィスワークコース1年生59名

最初に企業側3社より自社の概要・業界の特徴、仕事の内容、採用後の人材育成や職場環境、求める人材などにつきプレゼンテーションをいただき、それを受けて学生パネリストより質問を行いました。その後、双方向での意見交換、情報交換を行いました。

(5) 三重県信用保証協会との連携事業

オフィスワークコース2年生前期のビジネス実務論の中で、「就職してから役立つ、経営とお金の話」と題して、7月15日(水)に講義をいただきました。

中小企業経営と金融の話、また、人生設計にも関わる金融リテラシーについてなど、企業で働く時に必要なお金と経営に関する感覚、金融に関する知識の習得につながり、将来の産業人材育成につながる内容でした。

介護福祉研究センター

1. 研究活動

1. 定例研究会

介護福祉研究センターでは、地域の福祉施設等の関係者や介護福祉関係で活動していただいている方々、卒業生を研究員に招き、令和3年3月現在45名の研究員が在籍しています。毎月一回の定例研究会を開催(今年度は7月より再開)し各分野の情報交換を行い、地域に還元できるよう学びあっています。

場所は、原則介護福祉研究センターまたは介護実習室で行っています。

1) 第38回定例研究会 7月16日(木) 17:00～19:00 参加者 12名

- ・テーマ:「高齢者見守り事業～そよ風～実践報告」
- ・発表者:城田 裕子 研究員
- ・内容: 本学保育科卒業生(8期)の城田裕子研究員から、「高齢者見守り事業」というテーマでこれまでに取り組んできた実践を紹介していただきました。

グループホームで認知症高齢者を支援していたころの取り組みとしては、利用者の「お伊勢参りをしたい」というニーズから、バス



城田研究員の発表の様子

旅行を企画し、実行するまでの資金集めや業者探しの工夫、旅行前から当日までの利用者の様子などのエピソードを交えてお話しいただきました。

地域との関わりについては、空き家を利用した「そよ風カフェ」について、立ち上げから地域との交流を目的とした様々な行事までご説明いただきました。地域の高齢者だけでなく、子どもたちが集まるイベントも企画、開催しており、そよ風カフェの活動を介して世代間の交流やさらなる活動の広がりが生まれていることを教えていただきました。

冒頭の自己紹介で、本学在学中に仲間と連帯し、よりよい学生生活を実現するために行動したエピソードをお話しいただきましたが、その後の実践も常にその頃の経験が礎になっていることがうかがえる実践報告でした。

2) 第39回定例研究会 9月11日(金) 17:00~19:00 参加者 12名

- ・テーマ「介護との出会いの中で学ばせて頂いた事」
- ・発表者：相楽 美津 研究員
- ・内容： 相楽研究員から介護との出会いから今日に至るまでの30年間をふり返ってお話しいただきました。

40歳台後半に介護を学ぶために入学した学校での現場実習で実際の介護と出会ったことが相楽研究員の介護に対する考え方の根本を作り上げたこと、卒業後の介護老人保健施設における職員時代には一人ひとりの利用者に合わせた介護のあり方を創意工夫し、その成果に手ごたえを感じたこと、さらに母校の教員として後進の育成にあたったことなどをお話しいただきました。教員時代にはオーストラリアの高齢者入所施設を訪問し、寝たきりが日本だけのことであることを学び、オーストラリアにおける利用者一人ひとりの生き方を大切にした介護に刺激を受けたというエピソードもうかがいました。

教員を退職した後も介護の現場と関わり、さらに、ご自身が後期高齢者になったことから改めて気づいたこと、感じたことも、これまでの学びと照らし合わせてお話しいただきました。誰もが必ず老いるなかで、どのように生きるのか、どのような介護を求めるのか、どのように介護するのか考える機会となりました。

3) 第40回定例研究会 10月23日(金) 17:00~18:30 参加者 11名

- ・テーマ「介護職を目指す留学生のためのコンピューターリテラシー」
- ・発表者：川喜田 多佳子 研究員、寺家 尚美 研究員
- ・内容： 介護福祉コースに在籍する留学生を対象とした情報基礎演習という科目の取り組みについてお話しいただきました。留学生の入学者が年々増加している現在、授業内容も将来彼らが介護の現場で働くことを見据え、日本についての理解を深めることができる実践的なテーマを選ぶなど、留学生の問題点を考慮しつつ日本人学生たちとの異文化交流や、協働意識の向上につながる授業展開の取り組みなどの工夫をご紹介いただきました。またコロナ対策のため授業内容を大幅に変更し、本学の遠隔学習支援システムmanabaと連携してYouTubeで動画を在学生限定で配信するなど、新しい取り組みとその結果についてもお話しいただけました。

問題点だけでなく留学生たちの個性や努力の様子も知ることが出来、来年度のカリキュラムについても日本人学生と留学生、それぞれへの対応と課題について考える機会となりました。

4) 第41回定例研究会 11月6日(金) 16:20~18:20

参加者 介護福祉コース1・2年生 52名 研究員 10名

- ・テーマ:「施設従事者による虐待とその防止〜第3委員の検証作業から見てきたもの〜」
- ・発表者:市川 知律 氏(有限会社With A Will 市川社会福祉士事務所取締役)
- ・内容: 三重県高齢者・障がい者虐待対応専門職チーム 副委員長の市川氏に上記テーマでお話していただきました。事例からどのようなケースが虐待と判断されるのか、虐待防止法の目的、介護現場の声など様々な視点から虐待が起こる背景や「権利を守る」という事はどういう事なのかを考える機会となりました。施設運営側、管理者、職員、虐待してしまう側、それぞれの事情と視点を考え事業所全体で話し合い、対応していくことが虐待の再発防止につながる。利用者の気持ちを聞かず日々のノルマをこなすことにとらわれていないか、事業所だけでなく私たちも夢と希望をもって入ってきた人の気持ちをつぶしていないか、あらためて見つめなおすことの大切さを教えていただきました。貴重な機会ということで、本校の介護福祉コースの学生たちも聴講させていただきました。今後の講義の中でも、より深く考える指導につなげていきたいと思っております。

5) 第42回定例研究会 令和3年1月19日(火) 17:00~18:30 参加者11名

- ・テーマ:「能動的学修を取り入れた授業実践〜高齢者虐待防止についてディベートを通じた討論の展開〜及び、留学生の増加に伴う課題」
- ・発表者:中川 千代 研究員
- ・内容: 中川研究員よりディベートを通じた能動的学修(アクティブ・ラーニング)を行った授業について、その成果と課題を報告いただきました。
受講した学生からは、日常人間関係に気を遣って議論をする機会の少ないことから、役割を決めて討論できるディベートは非常に新鮮で、積極的に授業に参加することができたという回答が多く寄せられていました。
一方で近年、アジア圏から多くの留学生が介護福祉コースに入学しており、日本語能力をはじめ文化や生活習慣の違いからこれまでのような授業運営が難しくなっているという課題が示されました。これらの留学生に対しては、授業担当教員だけでなく様々な支援者による重層的な関わりにより、学びを深める取り組みをしていく必要があることが確認されました。その後の質疑応答では外国人留学生の日本語習得の問題や、介護人材確保の問題などについて意見の交換がおこなわれました。

6) 第43回定例研究会 令和3年2月9日(火) 17:00~18:30 参加者 10名

- ・テーマ:「特定施設入居者生活介護施設『虹の夢津』について」
- ・発表者:萩野 智美 研究員、堀山 絢加 氏(萩野研究員の同僚)
- ・内容: 本学卒業生の萩野研究員と、同僚の堀山氏により現在働いている施設についての紹介と今後の展望について発表していただきました。就労支援施設を併設することで障害を持つ方も自分の得意分野を活かす就労で自分の役割を果たし、その分介護職員は利用者 と触れ合う業務に集中できるという共生スタイルや、コロナ対策を行いながらも毎日の生活の思い出作りに対して、介護職員だけでなく施設全体で取り組む姿勢などを、いきいき



とした利用者さんたちの生活風景と共に紹介していただきました。また、YouTubeへの動画で介護の楽しさについてPRする活動についてもご紹介いただきました。「介護のイメージをもっとポジティブな要素で伝えたい」とYouTubeやInstagramを活用して、若者がより若い人へ伝えようという姿勢、よりよいものを伝えたいというエネルギーを感じたと受講者の方たちからも非常に好評でした。堀山さんは「おちゃのみこち」という番組名でYouTubeにたくさん介護についての楽しい動画をアップしていらっしゃいます。機会がありましたらぜひご視聴ください。

II. 実施事業

1. 介護福祉セミナー

1) 第1回介護福祉セミナー

6月27日(土) 13:30～15:30

テーマ:「牛乳パックを使った服薬用手作り自助具」

講師:永田 穰氏(一般社団法人三重県作業療法士会監事)

※新型コロナウイルス対策のため無期延期となりました。来年度には再度計画したいです。

2) 第2回介護福祉セミナー

12月12日(土) 13:30～15:30

テーマ:「筋膜リリース～肩こり解消と小顔効果～」

講師:高山 文博 研究員

2. 白子公民館の高齢者と学生の交流サロン事業

1) 第1回(通算第29回)

9月19日(土) 10:30～12:00

参加者:高齢者10名、学生ボランティア10名、

中川 千代 研究員、服部 優子 研究員、伊藤 利美 研究員、相楽 美津 研究員

内容:「いつでも夢を」の歌に合わせた簡単な体操、ネパールの概要について学習
自己紹介、名前送りゲーム



2) 第2回(通算第30回)

10月24日(土) 10:30～11:30

参加者:高齢者8名、学生ボランティア5名

中川 千代 研究員、服部 優子 研究員、伊藤 利美 研究員、相楽 美津 研究員

内容:「いつでも夢を」の歌に合わせた簡単な体操、グループ対抗〇×クイズ大会

※いままで考えたことのないようなクイズで興味深く、ぜひ他の人にも教えてあげたいという感想をいただき、クイズの問題と解答を提供しました。

3) 第3回(通算第31回)

11月21日(土) 10:30~11:30

参加者:高齢者7名、学生ボランティア5名

中川 千代 研究員、服部 優子 研究員、伊藤 利美 研究員、相楽 美津 研究員

内容:グループ対抗「人間すごろく」大会

※頭も身体も使い、よく動いて時間が過ぎるのが早く感じとても楽しかったという感想をいただきました。

4) 第4回、第5回は12月、令和3年1月に予定され直前まで準備しましたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止となりました。

※白子公民館館長から学生4名に感謝状が贈られました。

3. 高校生等を対象とした介護啓発事業

1) 介護見学バスツアー 8月22日(土) 10:00~13:00

見学先:特別養護老人ホーム報徳園

参加者:日本語学校留学生13名、高校生2名、学生ボランティア2名、

中川 千代 研究員、服部 優子 研究員

内容:施設概要紹介、施設利用者との交流、食形態の異なるメニュー試食体験



在学生主導のレクリエーションの様子



食形態の異なるメニュー試食体験

III. 介護のみらいを考えようーあなたの思いやりを言葉にしてみようー作文コンクール

今年度の新たな事業として、高田短期大学と本センターの主催で小中学生向けの介護啓発事業として作文コンクールを実施しました。

募集期間:12月1日(火)~令和3年1月31日(日)

対象者:小学生の部・・・県内小学校・特別支援学校に通う小学5、6年生

中学生の部・・・県内中学校・中等教育学校・特別支援学校に通う中学生

応募作品は、小学生の部439作品、中学生の部661作品の合計1100作品が寄せられ、学内審査会を経て受賞作として23作品を選出しました。

IV. 研究成果の発行

1. 介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第7号(令和3年3月発行)

執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文2編、調査報告1編、実践報告1編、授業実践報告1編に原稿依頼しました。

「介護のみらいを考えよう」作文コンクールの最優秀賞・優秀賞を6作品掲載しました。

V. 学生ボランティアの組織化「ふれんど えいむ」

登録者募集事業

本センターの事業（特に地域貢献）等にボランティアとして参加してくれる学生を募り、意識付けを図るため、登録会員証（名刺サイズ）の発行を行い、今年度の登録者数は49名でした。※「ふれんど えいむ」に登録した学生と実際の活動をしてくれる学生がリンクしない傾向にあるため意識付けができていないのかどうか、また留学生の増加が課題です。

VI. 三重県文化会館との連携事業

「介護を楽しむ、明るく老いるアートプロジェクト2017-2019のあゆみ」の冊子が令和2年3月末付で発行され、本研究センターにおける取り組みも掲載されました。掲載内容は、高校訪問時に配布し広報しました。

その他のボランティア活動

本学の教育理念である「やわらか心」の実践の場として、全学生にボランティア体験活動プログラムを組み実践させることへの取り組みをしていますが、本年は新型コロナウイルスの影響を受け、感染防止対策面から、従来活動を大幅に見直したため、オフィスコースのボランティア実践履修生、子ども学科生を除くボランティア部員、介護福祉コースのボランティア応募者という限られた中での活動となりました。

三重県教育委員会が推進する「高等教育機関の専門的な知識や技能をかす教育プログラム」、特に、鈴鹿市立白子公民館での事業に積極的に取り組み、全国的にも注目されるユニークな活動である三重県警察本部との協働プログラムであるサイバー犯罪被害防止活動に取り組んでいます。

参加延べ人数／オフィス：62名 介護福祉：10名 子ども：0名 合計72名



その他

学内施設設備の整備事業の実績

カフェテリア アクリルパーテーション設置（コロナ感染症対策）

施工業者 : 光スチール家具(株)
施工費用 : 1,045,000円
施工時期 : 令和2年6月



図書館1階カウンター システム更新

施工業者 : (株)紀伊國屋書店
施工費用 : 1,989,350円
施工時期 : 令和2年9月



ドメインサーバー及び学内Webサーバー

施工業者 : (株)システムテクノ
施工費用 : 1,706,540円
施工時期 : 令和2年11月

命の大切さを考える教育の推進

本校の建学精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」を校訓として、仏教教育による人間味の豊かさを求め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨に努め、広い視野から社会貢献できる人材の養成を目指した教育を行っています。

月1回の本山参詣や週1時限の一般仏教の授業及び校外宿泊学習での平和学習等において自他共にかけがえのない「命」を尊重し、人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し支え合って生きる重要さに気づかせています。特にいじめの未然防止といじめを許さない、いじめをさせないことなどを視野に入れて、行事や授業に反映させています。いじめ・体罰・ハラスメントについては、学期毎にアンケート調査を実施しています。

また、本山参詣で仏教講話を聴聞することを通して、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながると考えています。これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方を涵養しています。

人権教育研修の推進

本校は宗祖親鸞聖人の教えを建学の精神として、宗教的情操を養い、互いの人格・人権を尊重できる人物の育成に努めています。生徒たちには「うわさや偏見に流されず真実を確かめ、自分自身の考えを持つ」「差別に立ち向かい行動する力をつける」「他者の異なった価値観を尊重しながら仲間同士のつながりを強める」ということを具体的な目標として人権教育を実施しています。

学期ごとに各学年による人権LHRを開催しているほか、毎年秋の校外宿泊学習へ参加する学年においては、人権学習の一環として、平和学習に関するコースを組み入れており、事前学習の成果を文化祭で発表します。その他の学年は人権メッセージを実施し、結果を文化祭で展示発表しています。今年度のアンケートのテーマは「新型コロナウイルスに関する差別や偏見があるという話をよく聞きますが、このようなことをなくすためにはどうすることが必要だと思いますか」でした。

また、「クラス別人権LHR」の時間を確保し、目の前の課題に取り組むなど中高それぞれ普段の生活から人権を意識することを念頭において活動しています。

教職員においては、県人権教育課や人権センター主催の研修会へ積極的に参加すると共に、人権講演会やフィールドワークを実施するなど人権意識の向上に努めています。

また、人権フィールドワークでは、毎年施設・地域を訪問し、様々な関係者との出遭いを積み重ね、学んだことを生徒へ還元しています。

人権感覚を磨くことは今の自分を見つめ直すことであり、決して他人任せにすることではありません。様々な課題を抱える厳しい現代社会の中でいかに生きるかを模索し、今後も地域や家庭と連携を取りながら人権教育を着実に進めていきたいと考えています。

今年度の人権フィールドワーク及び校外宿泊学習は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止としました。

きめ細やかな学習指導の推進

本校では、生徒の進度や達成度に応じた指導を行うとともに、生徒の学力及び特質に応じたコース・クラス編成を考慮しながらその指導に努めています。

通常の綿密な計画に基づいた授業は勿論のこと、小テスト、補講、夏期講習といった普段では取り組みにくい授業を実施したり、考査後の個別懇談などを行い、進路実現のためのサポートを実施しています。さらに、夏季休暇中においても、各学年で創意工夫されたセミナーを実施し、苦手な分野の克服に努めており、生徒も有意義な時間を過ごしています。

また、学習以外の面で、不登校や精神的な悩みを抱える生徒の増加が見られますが、本校においては教育支援委員会、生徒指導部、各学年、スクールソーシャルワーカー、保健室、カウンセラーと連携して保護者や生徒の負担を少しでも軽減できるように努め、心身のケアに取り組んでいます。

生徒全体が楽しく充実した学校生活を送れるよう、きめ細かく生徒の実情を把握し、今後も親切丁寧な繰り返し学習や習熟度に応じた個別指導を行うことにより、学習意欲と実力向上に努めています。中学に関しては、愛知県から通う生徒も多いため、名古屋にて愛知県保護者会懇談会を実施していますが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止といたしました。

ICT教育とアクティブラーニング対策

新型コロナウイルス感染症対策として、Classiを利用した健康観察、Meetを活用したリモート授業やホームルーム、懇談などを行いました。

また、臨時休校期間中の補助教材としてスタディ・サプリを導入し、授業の遅滞に対応しました。

学校再開後もClassiとGoogle Classroomは、アンケートや小テスト、生徒の学習状況の把握、教員全体への連絡に有効に活用しているほか、電子黒板の利用については、教員間で改善が行われ、図やグラフ、動画、資料、教科書など積極的に工夫することで、補助的な教材に利用することが増えると共に板書は従来通り黒板にまとめるという形式が主流となってきています。

ただ、リモートでの学校行事や講演を全教室に配信することができず、校内のWi-Fi環境の脆弱さが浮き彫りとなり大きな課題となっています。GIGAスクール構想にむけたデバイスの充実についても早急に対応すべく検討中です。

アクティブラーニングは、新型コロナウイルス感染症対応の中で、3密をできる限り避けたり、フェイスシールドを利用するなどして、少しずつ再開を試みています。

キャリア教育の推進

生徒が育つ社会環境の変化は生徒たちの心身の発達にも影響を与えています。加えて産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、生徒たち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしています。こうした状況下で、変化に恐れず、社会に対応していく力を育てることが不可欠となってきています。

生徒が未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協働して学ぶことを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を得ることで、生涯にわたり学び続ける意欲を維持する基盤を作り出せるものと考えています。

社会体験等の校外活動は、他者の存在の意義を認識し、向社会性を高めたり、社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人としての基盤づくりともなると考えられています。その基本に基づき、本校は、ほとんどの生徒が進学を希望している関係上、進路情報の豊富な企業や大学と連携し、自己研鑽の一助としています。

進路・職業観を考える学習会等

	鈴鹿医療科学大学連携講座	進路ガイダンス
対 象	高Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ年	高Ⅱ年
内 容	薬学・看護・医療技術学部関係者による医療系学部の現状説明	大学・短大・専門学校（全38校）の個別相談会
実施日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	12月7日（月）

4年生 キャリア教育校外宿泊学習

上述のキャリア教育の方針に基づく取り組みとして、夏季休暇中を利用し、4年生を対象に東京キャリア宿泊学習を実施しています。本年度で10年目となる体験型キャリア学習で、生徒は、自ら相手先へ出向き、実際に社会で活躍している方々の話を聞くなどして、自分自身が求める将来像について、より一層理解を深めるべく活動しています。

また、大学や企業でお世話になった先輩諸氏は勿論、各企業の皆さんの協力なしにはできないものです。生徒にはそのことにも折に触れ話をし、終了後御礼状を書くなどの取り組みも行っています。残念ながら今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止としました。

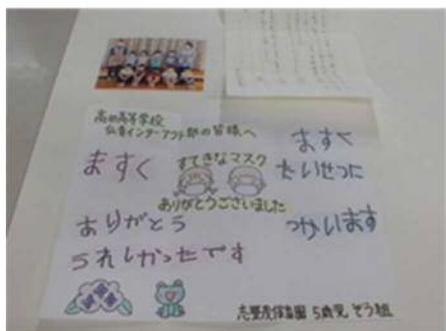
マスクと菜の活動

ボランティア活動を行う高田高校仏青インターアクト部の約30名の部員が休校中に自宅で出来る活動として、手作りマスクを制作しました。手作りマスクは、男性用と女性用のほか通気性の良い浴衣生地などで作られたものなど様々な種類が用意され、一つ一つに心のこもったメッセージを添え、休校中で配布することができない高校生に代わって部のOBの方に休業中の店舗を提供していただき津市内で無料配布を行いました。

配布を行った場所は以下の通りです。

和奏カフェ 高田保育園 高田幼稚園 一身田寺内町の館
特別養護老人ホーム報徳園 志登茂保育園 大門病院

この活動は三重テレビ放送及びNHK津に取材していただき、5月20日(水)のニュースで放送され、さらに5月28日(木)三重ふるさと新聞でも掲載されました。



大学等との連携事業

学習・進学意欲の向上、各分野への興味・関心の深化を目的として、各学年・コースで、三重大学や鳥羽水族館等と連携事業を毎年実施しておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以下2講座のみの開催となりました。

三重大学連携講座

12月14日(月) 「三重県の救急医療について」 5年生 36名参加

講師 救命救急・総合集中治療センター 今井寛教授・センター

内容 救急医療(臨床)の実情と必要性、やりがい、求められる資質から医学部を目指す者の心構えや興味関心を深め、進路選択に向ける。

12月18日(金) 「勉強は役に立つのか」 高1・高4 580名参加

講師 教育学部 松本金矢教授

内容 学問間の繋がりや関連を知り、学ぶことの根本を知り、知的好奇心を強化し、現代社会を実感することで進路選択に向ける。



皇學館大学 高大連携協定

12月11日(金)に皇學館大学と高大連携に関する協定を結びました。これにより、皇學館大学教員が本校で出張講座を開催したり、本校生徒が大学の公開講座に参加することが可能になりました。来年度からの本格的な活動において、大学教授や大学生から説明や体験を聴くことにより、その人がどのような思いで研究や仕事をしているか、社会にとってなぜ有意義となるかといった価値観に触れることができ、生徒のキャリア育成に大きな影響を与えられると期待できます。



このほか、本校では、名古屋産業大学と津市高野尾町の赤塚植物園の協力を得て、平成29年度から環境教育の実践として、本校屋上に設置したCO2濃度測定装置のデータを基に、CO2削減をテーマとした探究学習を進めており、現在4・5年生の生徒約60名が活動しています。

【今年度の主な活動】

- ① 1月に名古屋で開催された経済産業省中部経済産業局主催「中部エネルギー地球温暖化対策推進会議」において、「1年を通じたの学校周辺のCO2濃度変化」と題して発表を行いました。
- ② 本活動の指導を頂いている名古屋産業大学は、台湾政府教育部・台湾大学と連携して、台湾での環境学習の普及にも努めていることから、昨年12月に、梅林前校長（現高田短大学長）が訪台し、現地の3高校（基隆高校・大同高校・明道高校）との学術交流提携を調印しました。これを受け、国際交流と学習内容を共有する目的で、6月に本校と台湾の高校6校の間でテレビ会議システムを利用したオンライン環境教育セミナーを開催し、各校の発表とその後の活発な意見交換を行いました。
- ③ こうしたCO2濃度測定は、地球温暖化のみならず、教室の換気状態を指標として示すことができるため、新型コロナウイルス感染拡大防止にも有効であると考え、積極的に取り組んでいます。



部活動の推進

部活動は、学年や学級を超えて共通の興味と関心を追求する中で体力や技術の向上はもとより、マナーやルールを守る社会性を身につけ、自らの意思で参加するという自主性を養い、活動を通して個性の伸長を図ることを目的とする教育活動の一つであります。

集団活動の中で協力することを学び、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、部活動の楽しさや喜びを感じ、学校生活に豊かさをもたらすだけでなく、生涯にわたってスポーツ・文化・芸術・科学に親しむ豊かな人間性を培うことを目指し、継続的に取り組んでいます。

中学生においては人間形成をするうえで重要な時期であるため、継続し続けることに関して部顧問と密接に連携し、自分を律し他人を思いやることや社会のルールを学ぶ一助としています。

令和2年度のクラブ活動所属生徒数

高等学校	文化部	22部	510名	(男134名・女376名)
	運動部	18部	611名	(男373名・女238名)
	生徒会直属部、同好会、愛好会	8部	128名	(男47名・女81名)
	計1,			249名
中学校	文化部	8部	149名	(男78名・女71名)
	運動部	11部	395名	(男217名・女178名)
	生徒会直属部、同好会、愛好会	8部	60名	(男17名・女43名)
	計			604名

主な活動実績はつぎの通りです。

活動実績		
高等学校		
運動部	インターハイ等 全国大会出場	インターハイは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 卓球部・陸上部・柔道部・新体操
	国民体育大会	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
	その他東海大会出場	陸上部・剣道部・軟式野球部・馬術部
文化部	全国大会出場	文芸部・俳句部・放送部・将棋部・写真部・箏曲部
中学校		
文化部	全国大会出場	放送部・書道同好会



防災教育・危機管理教育の取り組み

火災、地震など予測不可能な緊急事態が発生した場合、発生時に冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災意識の高揚に取り組むべき事業を展開しています。

9月1日（火）に地域住民の方、津市及び消防署等の関係団体との連携のもと、高田福祉事業協会の協力を得て合同避難訓練を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止としました。

危機管理の取り組みとしては、学内機密情報の保護のため、パソコンや端末記憶装置の持ち込み等について、取扱規則を定めて個人情報の漏洩及びウイルス等の感染がないように、周知徹底を図っているほか、インターネット上での誹謗中傷等の書き込みなどにも傾注しています。

保護者への連絡手段としては、「あんしんネット」、「きずなネット」等により、最新情報を随時的確に提供しています。

感染症に対する取り組み

新型コロナウイルス感染症対策として、感染防止や感染症発症時における生徒及び教職員の健康と安全を堅持することを目的とし、学校の生活様式や対応マニュアルを新たに作成し、全生徒・教職員に配布しました。

新型コロナウイルス感染症対策 主な生活様式	
登校前	<ul style="list-style-type: none"> 起床後検温、体調のチェックをし、Classiに入力する。 ティッシュ、マスク、ハンカチを必ず持参させ、他人との共有は禁止する。 通学時はマスクを着用し、私語を禁止する。
登校後	<ul style="list-style-type: none"> 昇降口で手指の消毒、または石けんで手洗い後に教室に入る。 教室、廊下の換気を定期的に行う。 大声で話をせず、むやみな身体接触はしない。 屋食は車まらず各自の机で食べるようにする。 清掃は手袋をつけて行う。 使用済みのマスクやティッシュは自宅に持ち帰る。

学校安全・生活指導、保健計画の推進

学校安全管理の立場から道路交通法改正に伴う交通ルール遵守の呼びかけ、自転車の校内安全点検などを行っています。また、自転車が絡む交通事故が多発していることから、津ドライビングスクールと三重中央自動車学校へ講師を依頼し、新入生に対して自転車交通安全講習を例年実施していますが、本年度は新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。

本校は約870名の生徒が自転車通学をしており、学校周辺は狭い道路や見通しの悪い交差点が多いこともあり、事故をおこさないよう基本的なルールや事故の悲惨さを訴え、知識や技術の向上に努めるとともに生徒と教員が街頭登下校指導をするなど、マナーアップや安全意識の高揚にも傾注しています。

このほか、社会生活面において、5月21日(木)には携帯電話・スマートフォンの使用マナーやネットワークにつながることの利便性、SNSの危険性に関する「スマホ携帯安全教室」を、9月23日(水)には「薬の正しい使い方」と題して、学校薬剤師の秦賢司先生による薬物乱用防止教室をどちらもGoogle Meetを使用して、オンラインで実施しました。

また、18歳より選挙権が与えられたことにより、高校3年生及び6年生を対象に、主権者としての自覚と選挙への意識の高揚を図っています。

学校保健に関しては、本年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、保健室のベッドシートを使い捨てのものに交換し、マスクや消毒液を常備して、生徒の安全対策に留意しています。もちろん校医検診や他の各種検査を通じ、生徒個々の健康状態を把握し常に健康管理に努めるとともに、保健だよりを定期的に発行し、その時期の内容に合った啓発に努めています。

国際交流事業

目的	国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し、友好を深めること。 互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。 受け入れ家庭が、生徒とともに学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。
----	--

今年度の交換留学事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止といたしました。

姉妹校とのオンライン会話

新型コロナウイルスの影響で交換留学自体は中止となりましたが、オーストラリアの姉妹校であるセントモニカズカレッジで日本語を学習している生徒達と本校の高校2年生が11月24日(火)と11月30日(月)にGoogle Meetで会話し、親睦を深めました。セントモニカズカレッジの生徒からは日本の部活動やアルバイト事情などについて質問を受け、本校の生徒達は自身の学校生活の現状を元に質問に答え、日本語や英語を交えながらコミュニケーションを図ることができました。

語学研修

イギリス語学研修

イギリス語学研修は、現地の語学学校のインターナショナルクラスで他国の生徒とともに学ぶ英語学習を主眼に置いた研修プログラムで、中3・高校生を対象に実施しています。昨年度は参加希望者が増えたため、ギルフォードとリックマンズワースとに分かれて実施しました。

この研修は英語に関心が深く、英語学習に意欲的に取り組んでいる生徒が参加しています。

また、研修中はホームステイをすることにより、英語の運用能力の向上や英語学習へのより一層の動機付けを促し、学習意欲を育むだけでなく、他国の生徒との交流が国際人としての感覚を養うこととなっています。

残念ながら今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止といたしました。

イングリッシュキャンプ

本校ALTと外部からのゲストALTを講師として、II類・特別選抜クラスの生徒を対象に「イングリッシュキャンプ」を実施しています。

生徒達は、オールイングリッシュで様々な場面に取り組み、一学期間に授業を通して準備してきたプレゼンテーションを保護者参観の中で発表するなど、英語や異文化への興味・関心が深まり、話す力を高める機会となっています。

残念ながら今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止といたしました。

主体的にSDGsを考えるPBL (Project Based Learning)

イングリッシュキャンプは中止としましたが、生徒に英語や世界に興味を持ってもらえるように8月27日(木)と9月3日(木)に文部科学省「トビタテ!留学JAPAN実践授業」、11月19日(木)に環境活動家谷口たかひさ氏によるZoom講演を実施しました。こうした取り組みを経て、海外の学生と本校の生徒がインターネットを通じSDGsに即した社会問題をディスカッションするイングリッシュキャンプに代わるPBL (Project Based Learning) を12月22日(火)と12月26日(土)に行いました。

「DMM英会話」サービスの導入

経済産業省が実施する「EdTechソフトウェア・サービスの導入実証事業」に採択された「DMM英会話」サービスを導入しました。

EdTechは、テクノロジーで学校現場の課題を解決するもので、文部科学省が提唱する新時代への対応であるSTEAM教育(s・サイエンス、T・テクノロジー、E・エンジニアリング、A・アート、M・マセマティクス、s・スポーツといった科学、技術、工学、美術もしくはリベラルアーツ・教養、数学、体育等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育)環境の構築が今後の高等学校教育において必要不可欠であるとの観点から、また、コロナ禍の学習方法としても有効であることから積極的に取り組んでいきたいと考えています。

教職員海外研修

教職員の海外研修の成果については、職員会議等において報告を行い、他の教員と情報共有することで教員全体の意識向上を図っており、その成果が生徒へ還元されていくことで、教育の質の向上につながっています。

残念ながら今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止としました。

学校自己点検・学校関係者評価

学校自己評価

学校自己評価については、例年「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実を図る」という趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っています。

令和2年度の目標	
目指す学校像 (教育理念)	生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。崇高な志と社会に貢献できる人材を育成する。 自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。
重点努力目標	人権・同和教育の推進、進路指導の徹底、基本的生活習慣の確立、規範意識に則った行動力を育成する、学力の向上と充実錬磨に努める、環境を大切にし、世界に貢献できる人材の育成に努める。
点検・評価の日程	
令和2年 6月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
令和2年 12月	評価項目の確認と評価方法の決定
令和3年 3月末	評価実施
令和3年 4月	集計と分析
令和3年 5月	職員への結果の公表、評価結果の公表

授業アンケート

生徒がよい授業を受け、学力向上につなげるには、教員一人ひとりが授業改善に取り組む必要があります。教員自らが自分の授業を振り返り、自らの課題について分析できるよう生徒による授業アンケートを2学期後半に実施し、各教員に詳細を知らせるとともに、保護者には概要を公表しました。

学校関係者評価委員会

自己評価や保護者、学校関係者による評価の実施・公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民からの理解と参画を得ながら、学校・家庭・地域の連携協力により生徒の穏やかな成長を図り、健全な学校づくりを推進することを目的としています。

なお、評価委員は委員数9名（教育関係者、学識経験者、地元企業、地域自治会、保護者会）から成り立っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止といたしました。

教職員資質向上への取り組み（初任者研修、学内研修、中部私学研修、中堅研修など）

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で学校教育に対する期待に応えるには、教員の資質能力向上とスキルアップが必要なため、それに対応できる教員研修を推進していきます。

多種多様な資質能力を持つ人材の集まりである教員集団が連携することにより充実した教育活動が展開できることから、その能力の保持のためにも研修は重要と考えられます。

研修については、これまでの自分自身の教育活動を振り返るとともに、教育界の最新情報を理解して将来への課題を自覚し、これからのリーダーシップを発揮するためのものです。

本校のほとんどの生徒が大学進学を希望しているため、大学ごとの入試問題検討会にも積極的に参加し、大学によって毎年変更される問題傾向や入試情報を少しでも生徒に有利な環境に導くべく把握に努めています。

また、公立中学校へ出向いて本校の模擬授業を実施するという事は、本校教員の資質を問われる関係上、普段以上の緊張感で接し、より自分自身の研究も必要となり、教員としての資質向上につながっていくものと考えられます。

新規採用者は、採用年度に学校の教員としての適性を考える機会として、職務の遂行に必要な実践的指導力と使命感の修養ならびに幅広い知見の習得及び教育指導の充実を図るための課題の解決等を目的に外部研修に参加し、モチベーションを高めています。さらに、本校においても独自に指導教員が生徒との接し方や指導方法、事務的内容を伝授し、教員として一日も早い自立を目的として、年間10回の研修を実施しており、終了後は受講についてのアンケートおよび校長や教頭を囲んでオフサイトミーティングを行い、翌年度の実施計画案に役立てています。

	研修テーマ	実施日時	担当者	場所	備考
1	初任研OR	4月 9日(木) 15:40~16:30	高梨	4号館会議室	教頭
2	教職の実務 中・高の教務	4月10日(金) 15:40~16:30	谷口		教務部長
3	高田の歴史と建学の精神	4月14日(火) 11:10~12:00	鷲尾		学校長
4	学校法人の規定について	4月16日(木) 15:20~16:10	河北		事務局長
5	特別支援教育・カウンセリング	6月 5日(金) 15:40~16:30	的場・ダイクス		養護教育・学校カウンセラー
6	コンプライアンス (服務規程と教育法規)	6月 8日(月) 15:40~16:30	宇河		副校長
7	進路指導	6月15日(月) 15:40~16:30	古川		進路指導部長
8	学校の危機管理	6月22日(月) 15:40~16:30	眞岡		副教頭
9	人権教育推進	7月 6日(月) 15:40~16:30	鈴木夕		人権教育委員
10	生徒指導	7月10日(金) 15:40~16:30	福山		生徒指導部長

このほか、中堅以上の教員についても、これからの学校をリードするための知識や能力を養うため例年外部研修会にも参加していますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、中止となりました。

今後もしできる限り外部の講習会や研修会、出前授業に積極的に参加し、学校内では得ることのできない情報を吸収することで、新人からベテランまで教員としての資質向上に役立てていきたいと考えています。

生徒募集活動

高田中・高等学校公開イベント

小学生を対象とした「学びのひろば in 高田」・中学校入試説明会

高田の魅力を深めるべく興味あるイベントに取り組み、いかにして生徒確保を行うかが重要な問題となっている昨今、私立中学校の魅力を最大限に発揮し、その一貫としてより知っていただくために、小学生(4・5年生)を対象とした「学びのひろば in 高田」を年3回開催し、情報発信に努めています。残念ながら第1回及び第3回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。

学びのひろば in 高田			
日時	8月23日(日)(中止)	11月1日(日)	2月11日(木・祝)(中止)
テーマ	① 英語であそぼう ② プラネタリウム ③ おもしろ社会科クイズ ④ 世界の国をめぐるQ	① 第11回たかだ算数オリンピック ② 部活動ってなに？ ～中学校の部活動を体験しよう～	① たのしい理科実験 ② 古典の世界をのぞいてみよう ③ 親子で楽しむ算数マジック ④ Let's Cook
定員	120名 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	250名 (151名参加)	120名 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

また、受験生と保護者を対象とした中学入試説明会を9月22日(火・祝)に開催し、320世帯・594名の参加がありました。この他、広くマスコミを利用した広報活動や、塾を対象とした説明会を積極的に実施し、各地域で開催される私立中学展に向いてPRに努めています。



高等学校公開イベント・学校見学会・個別見学会

高等学校に関しては、教員が各中学校を訪問し受験生と保護者に対し、入試や本校の教育内容について詳細に説明しています。

8月22日(土)に予定していた学校見学会は、中学生約1200名と保護者約600名が参加申し込みをしていただきましたが、県内のコロナウイルス感染拡大を受け、中止といたしました。そこでWeb見学会と称して、インターネットでご覧いただけるようWebページ内に特設サイトを開設し、YouTube Liveでの限定ライブも公開しました。閲覧件数は、延べ1184件でした。

また、10月3日・10月31日・11月21日・12月12日の土曜日には個別見学会を開催し、681名の中学生が参加しました。個別見学会では、本校の良さを理解していただけるよう、より詳しい学校説明や校内ならびにクラブ活動の見学、個別相談を行いました。

なお、経済的に修学が困難な家庭については、国や県の就学支援制度などを活用することで、安心して教育が受けられる体制を整えていることをPRしています。

施設整備の整備事業実績

本館 2F 学生ホール・購買部学生ホール パーテーション設置	
施行業者	: 光スチール家具(株)
施行費用	: 979,000円
購入時期	: 6月12日
コピー機購入(2台)	
施行業者	: (株)シーオーエー ・ 富士ゼロックス三重(株)
施行費用	: 511,500円 872,300円
購入時期	: 6月30日 7月31日
1号館廊下雨漏り修繕工事	
施工業者	: (株)辻工務店
施行費用	: 2,600,000円
施行時期	: 8月3日～13日
電子黒板付プロジェクター設置工事等	
施行業者	: (株)システムテクノ
施行費用	: 7,796,030円
施行時期	: 8月22日～31日
印刷機購入(2台)	
施行業者	: 理想科学工業(株)
施行費用	: 880,000円
購入時期	: 9月15日
和式トイレ改修工事	
施行業者	: (株)藤原工業 (株)中部都市建築設計事務所
施行費用	: 27,192,000円
施工時期	: 10月1日～令和3年2月26日
第3体育館北面窓フィルム取り付け工事	
施工業者	: (株)鴻池組
施行予算	: 3,025,000円
施行時期	: 12月1日～4日
校内LAN配線及び情報コンセント増設工事	
施工業者	: (株)システムテクノ
施行予算	: 8,717,720円
施行時期	: 令和3年3月2日～3月29日



パーティション設置 (本館 2F 学生ホール)



パーティション設置 (購買部)



電子黒板付プロジェクター設置工事等



和式トイレ改修工事



第3体育館北面窓フィルム取り付け工事



校内LAN配線及び情報コンセント増設工事

財務の概要

資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

本学苑の資金収支決算総額は45億8,480万円となり、前年度の決算額と比較し4億9,468万円の減額となりました。

令和2年度 資金収支計算書総括

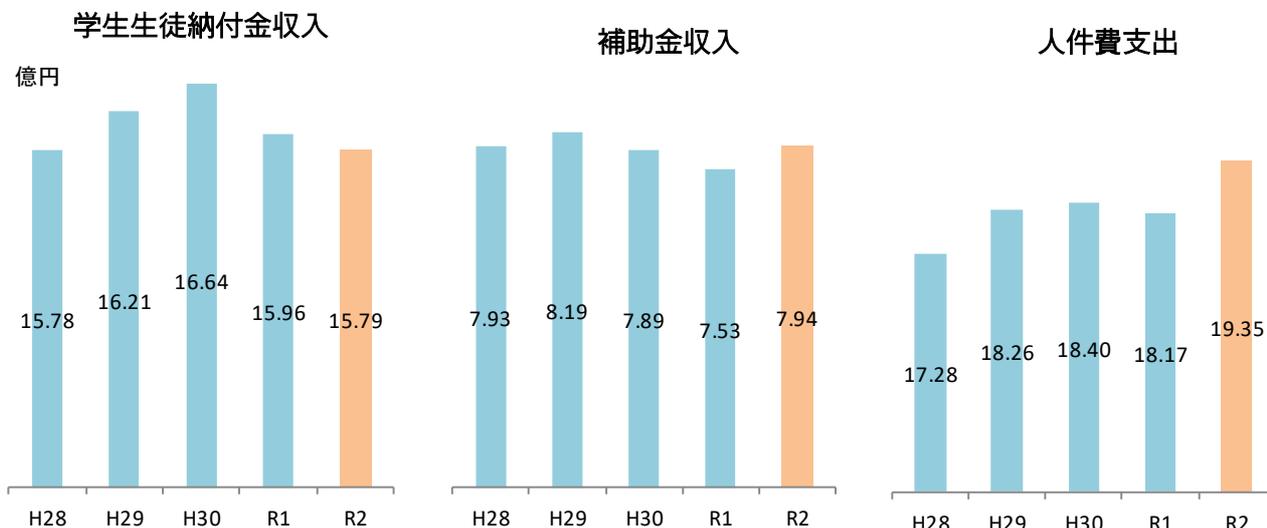
(単位：千円)

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,579,740	▼16,891	人件費支出	1,935,861	118,729
手数料収入	48,393	▼1,596	教育研究経費支出	289,619	▼106,293
寄付金収入	9,161	▼25	管理経費支出	83,931	▼3,646
補助金収入	794,523	41,494	借入金等利息支出	366	▼25
資産売却収入	167,703	64,183	借入金等返済支出	200,000	0
付随事業・収益事業収入	15,398	▼2,327	施設関係支出	27,192	10,461
受取利息・配当金収入	12,757	▼520	設備関係支出	35,358	19,207
雑収入	145,002	70,201	資産運用支出	660,000	▼18,152
借入金等収入	0	0	その他の支出	1,083,569	▼518,902
前受金収入	280,495	1,330	資金支出調整勘定	△59,340	▼20,793
その他の収入	1,648,998	▼124,169			
資金収入調整勘定	△420,889	▼79,203			
当年度収入合計	4,281,281	▼47,524	当年度支出合計	4,256,556	▼519,414
前年度繰越支払資金	303,528	▼447,165	翌年度繰越支払資金	328,253	24,725
収入の部合計	4,584,809	▼494,689	支出の部合計	4,584,809	▼494,689

(注) △は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示(以下同じ)。

前年比は令和元年度決算との比較です。

主要科目の推移



令和2年度 資金収支計算書（短期大学）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	411,472	▼ 23,333	人件費支出	428,386	▼ 10,058
手数料収入	9,808	1,900	教育研究経費支出	120,005	▼ 16,625
寄付金収入	1,000	0	管理経費支出	27,568	▼ 694
補助金収入	96,036	1,333	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	15,398	▼ 2,327	施設関係支出	0	▼ 16,731
受取利息・配当金収入	1	0	設備関係支出	15,727	8,592
雑収入	17,611	▼ 16,789	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	198,748	17,228
前受金収入	64,265	15,065	資金支出調整勘定	△ 22,094	▼ 11,793
その他の収入	209,280	44,213			
資金収入調整勘定	△ 57,173	18,426			
当年度収入合計	767,698	38,488	当年度支出合計	768,339	▼ 30,081
前年度繰越支払資金	21,842	▼ 47,498	翌年度繰越支払資金	50,652	28,810
収入の部合計	789,540	▼ 9,010	支出の部合計	818,991	▼ 1,271

令和2年度 資金収支計算書（中・高等学校）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科目	決算	前年比	科目	決算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,168,269	6,442	人件費支出	1,495,827	128,266
手数料収入	38,585	▼ 3,496	教育研究経費支出	169,614	▼ 89,668
寄付金収入	4,161	▼ 25	管理経費支出	34,828	▼ 3,753
補助金収入	698,487	40,161	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	0	0	施設関係支出	27,192	27,192
受取利息・配当金収入	2	0	設備関係支出	11,711	2,695
雑収入	127,093	87,004	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	716,534	▼ 536,385
前受金収入	216,230	▼ 13,735	資金支出調整勘定	△ 26,497	▼ 1,599
その他の収入	722,940	▼ 101,164			
資金収入調整勘定	△ 363,715	▼ 97,630			
当年度収入合計	2,612,051	▼ 82,441	当年度支出合計	2,429,209	▼ 473,251
前年度繰越支払資金	167,552	▼ 20,810	翌年度繰越支払資金	162,868	▼ 4,683
収入の部合計	2,779,603	▼ 103,251	支出の部合計	2,592,077	▼ 477,935

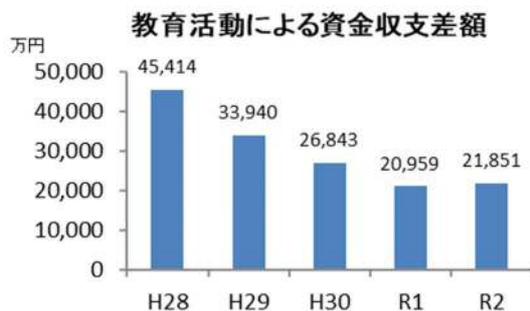
活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書では、資金収支計算書の決算額を「教育活動」「施設設備等活動」「その他の活動」の三つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにします。

令和2年度 活動区分資金収支計算書

(単位:千円)

科 目		決算額	前年比	科 目		決算額	前年比
教育活動による資金収支	収入			その他の活動による資金収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	1,579,740	▼ 16,891		有価証券償還収入	167,555	64,035
	手数料収入	48,393	▼ 1,596		退職給与引当特定資産取崩収入	0	▲ 100,000
	特別寄付金収入	0	0		借入金等収入	0	0
	一般寄付金収入	9,161	▼ 25		預り金受入収入	837,974	10,975
	経常費等補助金収入	778,732	25,703		仮払金回収収入	4,920	▼ 21,274
	付随事業収入	15,398	▼ 2,327		立替金回収収入	35,056	▼ 255
	雑収入	145,002	70,201		修学旅行費預り資産取崩収入	67,440	▲ 4,537
	教育活動資金収入計	2,576,426	75,065		修学旅行費預り金受入収入	67,044	▼ 2,557
	支出				卒業諸費預り資産取崩収入	15,961	931
人件費支出	1,935,861	118,729	卒業諸費預り金受入収入	15,506	266		
教育研究経費支出	289,619	▼ 106,293	小計	1,211,456	▼ 52,416		
管理経費支出	83,931	▼ 3,646	受取利息・配当金収入	12,757	▲ 520		
教育活動資金支出計	2,309,411	8,790	その他の活動資金収入計	1,224,212	▼ 52,936		
差引	267,015	66,275	支出				
調整勘定等	△ 48,530	▲ 57,379	借入金等返済支出	200,000	0		
教育活動資金収支差額	218,485	8,896	有価証券購入支出	300,000	▼ 1,512		
施設設備等活動による資金収支	収入			退職給与引当特定資産繰入収入	0	▼ 50,000	
	施設設備補助金収入	15,791	15,791	預り金支払支出	830,443	▼ 86	
	施設設備売却収入	148	148	仮払金支払支出	4,920	▼ 21,274	
	第2号基本金引当特定資産取崩収入	0	0	立替金支払支出	43,604	8,543	
	施設設備拡充引当特定資産取崩収入	550,000	30,020	修学旅行費預り資産繰入支出	67,044	▼ 2,557	
	施設設備等活動資金収入計	565,939	45,959	修学旅行費預り金支払支出	67,440	▲ 4,537	
	施設関係支出	27,192	10,461	卒業諸費預り資産繰入支出	15,506	266	
	設備関係支出	35,358	19,207	卒業諸費預り金支払支出	15,961	931	
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	0	0	長期前払金支払支出	286	▼ 1,419	
	施設設備拡充引当特定資産繰入支出	360,000	33,360	小計	1,545,205	▲ 71,645	
施設設備等活動資金支出計	422,550	63,027	借入金等利息支出	366	▼ 24		
差引	143,389	▼ 17,068	その他の活動資金支出計	1,545,571	▲ 71,669		
調整勘定等	△ 15,791	461,329	差引	△ 321,358	18,733		
施設設備等活動資金収支差額	127,598	444,261	調整勘定等	0	0		
小 計	346,084	453,157	その他の活動資金収支差額	△ 321,358	18,733		
			支払資金の増減額	24,725	6		
			前年度繰越支払資金	303,528	▲ 447,165		
			翌年度繰越支払資金	328,253	24,725		

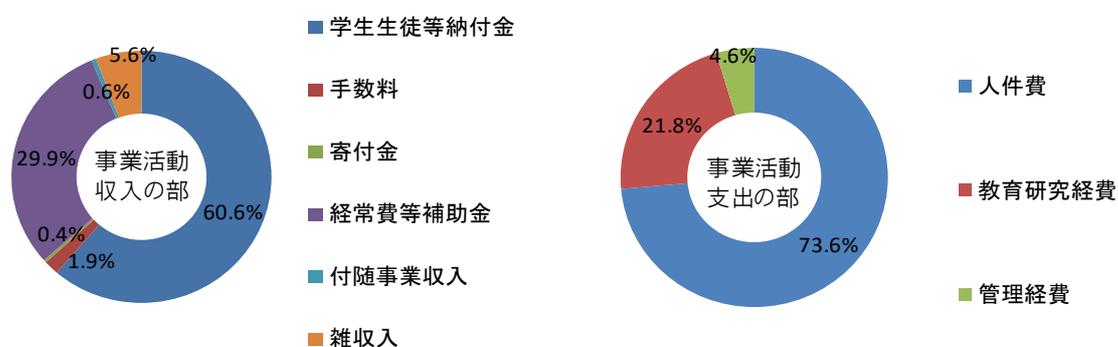


事業活動収支計算書の概要

事業活動収支計算書では、当該会計年度の諸活動に対応する事業活動収入・支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにします。収支を経常的なものと臨時的なものに、さらに経常的な収支を教育活動と教育活動外とに分けて把握することができます。

(単位：千円)

科 目		決算額	%	科 目		決算額	%	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,579,740	60.6%	特別収入	資産売却差額	610	0.0%	
	手数料	48,393	1.9%		その他の特別収入	15,791	0.6%	
	寄付金	9,481	0.4%		本部負担金収入	0	0.0%	
	経常費等補助金	778,732	29.9%		特別収入計	16,401	0.6%	
	付随事業収入	15,398	0.6%		特別支出	資産処分差額	562	0.0%
	雑収入	146,487	5.6%	その他の特別支出		0	0.0%	
	教育活動収入計	2,578,231	98.9%	本部負担金		0	0.0%	
	事業活動支出の部	人件費	1,927,000	73.6%		特別支出計	562	0.0%
		教育研究経費	572,151	21.8%		特別収支差額	15,839	
		管理経費	119,590	4.6%	〔予備費〕			
徴収不能額等		0	0.0%	基本金組入前当年度収支差額	△ 12,279			
教育活動支出計		2,618,740	100.0%	基本金組入額合計	△ 223,046			
教育活動収支差額		△ 40,509		当年度収支差額	△ 235,325			
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	12,757	0.5%	前年度繰越収支差額	△ 4,760,184			
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	基本金取崩額	0			
	教育活動外収入計	12,757	0.5%	翌年度繰越収支差額	△ 4,995,509			
	教育活動外支出の部	借入金等利息	366	0.0%				
		その他の教育活動外支出	0	0.0%				
教育活動外支出計		366	0.0%	(参考)				
教育活動外収支差額		12,391		事業活動収入計	2,607,389			
経常収支差額		△ 28,118		事業活動支出計	2,619,668			



基本金について

基本金には第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

第1号基本金	施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、本年度の組入額は2億2,304万円でした。主な内訳は、中高トイレ改修工事及び中高第3体育館借入金返済によるものです。
第2号基本金	施設設備を取得するため事前に組入れる金額で、本年度はありませんでした。
第3号基本金	教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。
第4号基本金	学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額であり、今年度は妥当性の検証の結果、妥当と判断されるため、組入・取崩共に行っていません。

短期大学

事業活動収支計算書

(単位：千円)

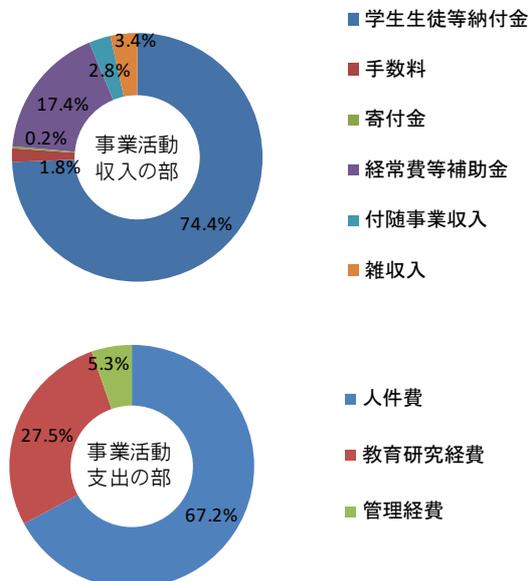
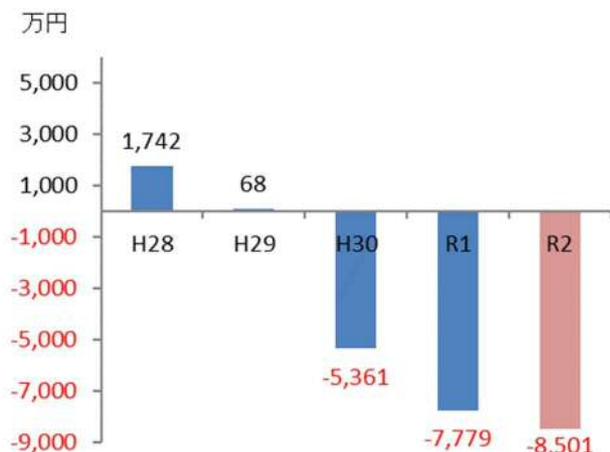
科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	411,472	74.4%	▼ 23,333	特別収入	資産売却差額	0	0.0%	0	
	手数料	9,808	1.8%	1,900		収入の部	その他の特別収入	0	0.0%	0
	寄付金	1,208	0.2%	▼ 462		支出の部	本部負担金収入	0	0.0%	0
	経常費等補助金	96,036	17.4%	1,333		特別収入計	特別収入計	0	0.0%	0
	付随事業収入	15,398	2.8%	▼ 2,327		資産処分差額	0	0.0%	▲ 930	
	雑収入	19,096	3.5%	▼ 16,662		その他の特別支出	0	0.0%	0	
	教育活動収入計	553,018	100.0%	▼ 39,552		本部負担金	0	0.0%	0	
	人件費	428,450	67.2%	▲ 13,962		特別支出計	0	0.0%	▲ 930	
	教育研究経費	175,581	27.5%	▼ 17,507		特別収支差額	0		930	
	管理経費	34,003	5.3%	▼ 859		[予備費]			0	
徴収不能額等	0	0.0%	0	基本金組入前当年度収支差額	△ 85,015		▼ 6,295			
教育活動支出計	638,034	100.0%	▲ 32,327	基本金組入額合計	△ 1,606		26,792			
教育活動収支差額	△ 85,016		▼ 7,225	当年度収支差額	△ 86,621		20,498			
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	1	0.0%	▼ 0	前年度繰越収支差額	△ 2,556,531		▼ 107,118		
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	基本金取崩額	0		0		
	教育活動外収入計	1	0.0%	▼ 0	翌年度繰越収支差額	△ 2,643,152		▼ 86,621		
	借入金等利息	0	0.0%	0	(参考)					
教育活動外支出の部	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0	事業活動収入計	553,019		▼ 39,552		
	教育活動外支出計	0	0.0%	0	事業活動支出計	638,034		▲ 33,257		
教育活動外収支差額	1		▼ 0							
経常収支差額	△ 85,015		▼ 7,225							

財務比率推移表 (事業活動収支関係)

比 率	H30	R1	R2	全国平均	比 率	H30	R1	R2	全国平均
人件費率	67.7	77.5	77.5	63.5	学生生徒等納付金比率	76.5	74.4	74.4	78.2
人依存率	88.4	104.1	104.1	81.2	経常寄付金率	0.2	0.2	0.2	0.8
教育研究経費率	34.8	31.7	31.7	34.4	経常補助金率	16.9	17.4	17.4	11.8
管理経費率	6.3	6.1	6.1	10.7	減価償却額率	9.8	9.5	9.5	12.3
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.1	経常収支差額率	△ 8.8	△ 15.4	△ 15.4	△ 9.0
事業活動収支差額比率	△ 8.9	△ 15.4	△ 15.4	△ 9.2	教育活動収支差額比率	△ 8.8	△ 15.4	△ 15.4	△ 10.2
基本金組入後収支比率	113.6	115.7	115.7	115.2					

※全国平均は前年度の値

教育活動収支差額の推移



中・高等学校

事業活動収支計算書

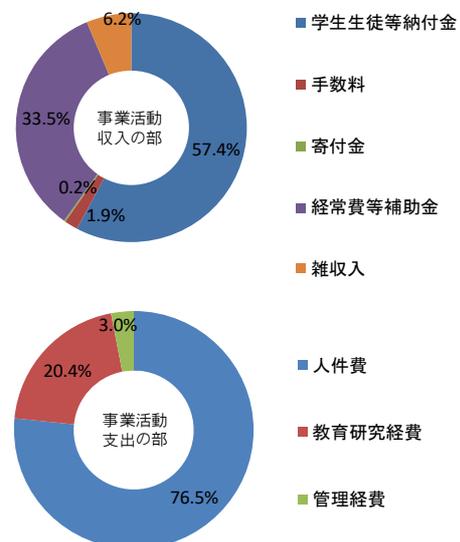
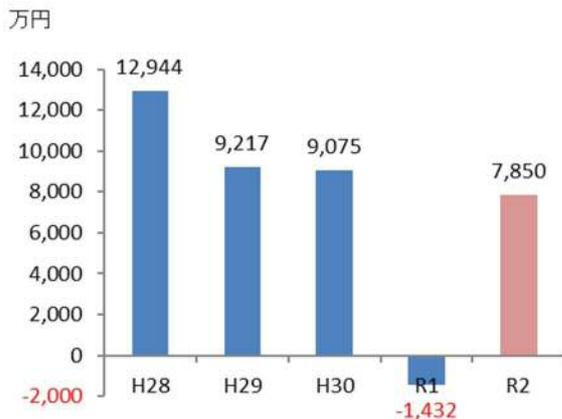
(単位：千円)

科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	1,168,269	57.4%	6,442	特別収入	資産売却差額	0	0.0%	0	
	手数料	38,585	1.9%	▼ 3,496		その他の特別収入	15,791	0.8%	15,791	
	寄付金	4,273	0.2%	▼ 339		本部負担金収入	0	0.0%	0	
	経常費等補助金	682,696	33.5%	24,370		特別収入計	15,791	0.8%	15,791	
	付随事業収入	0	0.0%	0		事業活動支出の部	資産処分差額	562	0.0%	562
	雑収入	127,093	6.2%	85,808			その他の特別支出	0	0.0%	0
	教育活動収入計	2,020,916	99.2%	112,786			本部負担金	0	0.0%	0
	人件費	1,486,902	76.5%	115,043			特別支出計	562	0.0%	562
	教育研究経費	396,570	20.4%	▲ 91,642			特別収支差額	15,229		15,229
	管理経費	58,944	3.0%	▲ 3,436		〔予備費〕				0
徴収不能額等	0	0.0%	0	基本金組入前当年度収支差額	93,731		108,049			
教育活動支出計	1,942,416	100.0%	19,966	基本金組入額合計	△ 235,750		47,446			
教育活動収支差額	78,500		92,820	当年度収支差額	△ 142,020		155,494			
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	2	0.0%	▼ 0	前年度繰越収支差額	△ 119,397		▼ 297,514		
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	0	基本金取崩額	0		0		
	教育活動外収入計	2	0.0%	▼ 0	翌年度繰越収支差額	△ 261,417		▼ 142,020		
	借入金等利息	0	0.0%	0						
	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0	(参考)					
教育活動外支出計	0	0.0%	0	事業活動収入計	2,036,709		128,576			
教育活動外収支差額	2		▼ 0	事業活動支出計	1,942,978		20,527			
経常収支差額	78,501		92,820							

財務比率推移表 (事業活動収支関係)

比 率	H30	R1	R2	全国平均	比 率	H30	R1	R2	全国平均
人件費率	70.1	73.6	73.6	64.9	学生生徒等納付金比率	59.2	57.8	57.8	52.2
人件費依存率	118.3	127.3	127.3	124.2	経常寄付金率	0.4	0.2	0.2	1.6
教育研究経費率	22.7	19.6	19.6	28.9	経常補助金率	32.7	33.8	33.8	38.3
管理経費率	2.8	2.9	2.9	5.7	減価償却額率	11.4	12.9	12.9	10.7
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.3	経常収支差額率	4.5	3.9	3.9	0.2
事業活動収支差額比率	4.5	4.6	4.6	1	教育活動収支差額比率	4.5	3.9	3.9	△ 0.2
基本金組入後収支比率	104.8	107.9	107.9	108.8	全国平均は前年度の値				

教育活動収支差額の推移



令和2年度補助金一覧表

(単位：千円)

補助金名	当年度 ①	前年度 ②	差異 ①－②
短期大学補助金 合計	96,035	94,703	1,332
国庫補助金 計	95,961	94,377	1,584
私立大学等経常費補助金	77,727	94,377	△ 16,650
授業料等減免費交付金	18,234	0	18,234
地方公共団体補助金 計	74	326	△ 252
結核健康診断予防接種費補助金	74	73	1
図書館活性化推進事業補助金	0	60	△ 60
生涯学習社会づくり支援事業助成金	0	193	△ 193
中・高等学校補助金 合計	698,483	658,322	40,161
高等学校補助金 計	557,786	517,243	40,543
国庫補助金 計	16,526	0	16,526
私立学校施設整備費補助金(施設環境改善整備)	6,798	0	6,798
私立学校情報通信ネットワーク環境施設整備費補助金	4,166	0	4,166
私立大学等研究設備整備費等補助金 (ICT教育設備整備)	2,561	0	2,561
学校保健特別対策事業費補助金 (感染症対策・学習保障等支援)	1,500	0	1,500
学校保健特別対策事業費補助金 (学校教育活動継続支援)	1,200	0	1,200
学校保健特別対策事業費補助金 (感染症対策マスク購入等)	301	0	301
地方公共団体補助金 計	541,260	517,243	24,017
私立高等学校等振興補助金	535,136	506,935	28,201
授業料減免補助金	0	4,851	△ 4,851
入学金補助金	1,327	1,237	90
人権教育推進事業費補助金	187	221	△ 34
結核健康診断予防接種費補助金	196	195	1
外国人語学指導助手補助金	300	300	0
教育改革推進事業補助金	300	300	0
私立高等学校振興補助金 (津市)	2,707	2,640	67
私立高等学校振興補助金 (鈴鹿市)	309	366	△ 57
国際交流事業補助金 (津市)	0	100	△ 100
スポーツ奨励補助金 (津市)	48	98	△ 50
三重県私立学校感染症対策・学びの保障支援補助金	750	0	750
中学校補助金 計	140,697	141,079	△ 382
国庫補助金 計	4,168	0	4,168
私立学校施設整備費補助金(施設環境改善整備)	2,266	0	2,266
学校保健特別対策事業費補助金 (感染症対策・学習保障等支援)	1,000	0	1,000
学校保健特別対策事業費補助金 (学校教育活動継続支援)	800	0	800
学校保健特別対策事業費補助金 (感染症対策マスク購入等)	102	0	102
地方公共団体補助金 計	136,529	141,079	△ 4,550
私立高等学校等振興補助金	135,884	140,948	△ 5,064
授業料減免補助金	0	41	△ 41
人権教育推進事業費補助金 (人権教育推進事業)	145	90	55
三重県私立学校感染症対策・学びの保障支援補助金	500	0	500
総 計	794,518	753,025	41,493

貸借対照表の概要

貸借対照表は、令和3年3月31日現在の財政状態を示しています。

令和2年度 貸借対照表（総括）

（単位：千円）

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	7,993,972	8,305,175	△ 311,203
有形固定資産	6,472,242	6,722,056	△ 249,813
土地	1,025,123	1,025,123	0
建物	4,292,005	4,478,633	△ 186,628
構築物	760,124	826,897	△ 66,773
教育研究用機器備品	108,537	124,953	△ 16,416
管理用機器備品	6,410	7,394	△ 984
図書	228,707	227,204	1,503
車輜	21,417	1,933	19,484
学苑林	29,919	29,919	0
建設仮勘定	0	0	0
特定資産	1,468,769	1,488,769	△ 20,000
退職給与引当特定資産	262,490	262,490	0
施設設備拡充引当特定資産	1,206,279	1,226,279	△ 20,000
第2号基本金引当特定資産	0	0	0
その他の固定資産	52,961	94,351	△ 41,390
借地権	2,258	2,258	0
電話加入権	1,286	1,286	0
施設利用権	285	356	△ 71
ソフトウェア	968	548	421
有価証券	42,977	80,070	△ 37,093
差し入れ保証金	350	350	0
長期前払金	4,837	9,484	△ 4,647
流動資産	570,779	451,880	118,898
現金預金	328,253	303,528	24,725
未収入金	141,724	55,097	86,626
前払金	91	243	△ 152
立替金	38,797	30,249	8,548
修学旅行費預り資産	56,256	56,652	△ 396
卒業諸費預り資産	5,657	6,112	△ 454
資産の部合計	8,564,751	8,757,056	△ 192,305
固定負債	248,468	257,329	△ 8,861
長期借入金	0	0	0
退職給与引当金	248,468	257,329	△ 8,861
流動負債	434,391	605,557	△ 171,165
短期借入金	0	200,000	△ 200,000
未払金	59,097	38,273	20,824
前受金	280,495	279,165	1,330
預り金	32,886	25,355	7,531
修学旅行費預り金	56,256	56,652	△ 396
卒業諸費預り金	5,657	6,112	△ 454
負債の部合計	682,860	862,886	△ 180,026
基本金	12,877,399	12,654,353	223,046
第1号基本金	12,705,399	12,482,353	223,046
第2号基本金	0	0	0
第4号基本金	172,000	172,000	0
繰越収支差額	△ 4,995,509	△ 4,760,184	△ 235,325
翌年度繰越収支差額	△ 4,995,509	△ 4,760,184	△ 235,325
純資産の部合計	7,881,891	7,894,170	△ 12,279
負債及び純資産の部合計	8,564,751	8,757,056	△ 192,305

注記 1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 115,973,070円 の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 1,016,896,488円 から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

(2) その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

該当無し

3. 減価償却額の累計額の合計額

6,276,825,989円

4. 徴収不能引当金の合計額

0円

5. 担保に供されている資産の種類及び額

0円

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額

18,546,000円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度(令和3年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	602,977,136	623,139,201	20,162,065
(うち満期保有目的の債券)	(329,679,462)	(334,031,778)	(4,352,316)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	601,511,806	571,376,884	△30,134,922
(うち満期保有目的の債券)	(601,511,806)	(571,376,884)	(△30,134,922)
合 計	1,204,488,942	1,194,516,085	△9,972,857
(うち満期保有目的の債券)	(931,191,268)	(905,408,662)	(△25,782,606)
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	1,204,488,942	-	-

② 明細表

(単位 円)

種 類	当年度(令和3年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	971,511,806	956,752,100	△14,759,706
株 式	3,297,674	15,354,423	12,056,749
投資信託	229,679,462	222,409,562	△7,269,900
貸付信託	-	-	-
その他	-	-	-
合 計	1,204,488,942	1,194,516,085	△9,972,857
時価のない有価証券	-	-	-
有価証券合計	1,204,488,942	-	-

財務比率推移表

(単位：%)

比 率	H30	R1	R2	全国平均	評	算式(×100)	説 明
固 定 資 産 率	90.2	94.8	93.3	84.8	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
有 形 固 定 資 産 率	73.2	76.8	75.6	59.7	▼	$\frac{\text{有 形 固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているか
特 定 資 産 率	16.0	17.0	17.1	20.0	△	$\frac{\text{特 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	長期に亘って特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況はどうか
流 動 資 産 率	9.8	5.2	6.7	15.2	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
固 定 負 債 率	4.7	2.9	2.9	6.3	▼	$\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	長期的な負債構成のバランスと比重はどうか
流 動 負 債 率	11.7	6.9	5.1	5.1	▼	$\frac{\text{流 動 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	短期的な負債構成のバランスと比重はどうか
内 部 留 保 率	8.3	11.5	13.5	26.2	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	特定資産と有価証券と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合はどうか
運 用 資 産 率	69.3	69.8	68.0	1.8	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{外 部 負 債}}{\text{経 常 支 出}}$	一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているか
純 資 産 率	83.6	90.1	92.0	88.6	△	$\frac{\text{純 資 産}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	純資産の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
繰 越 収 支 差 額 率	△ 45.4	△ 54.4	△ 58.3	△ 18.1	△	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	繰越収支差額の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
固 定 比 率	107.9	105.2	101.4	95.7	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}}$	土地・建物等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか
固 定 長 期 適 合 率	102.1	101.9	98.3	89.3	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産} + \text{固 定 負 債}}$	自己資金のほか長期借入金で固定資産を取得する原則にどの程度適合しているか
流 動 比 率	84.0	74.6	131.4	299.8	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	1年以内に償還する流動負債に対して1年以内に現金化が可能な流動資産はどの程度用意されているか
総 負 債 比 率	16.4	9.9	8.0	11.4	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	純資産に対する他人資金の比重はどうか
負 債 比 率	19.6	10.9	8.7	12.9	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{純 資 産}}$	他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないか
前 受 金 率	261.9	108.7	117.0	522.7	△	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	翌年度分の入金金等が現金預金の形で適切に保有されているか
退 職 給 与 引 当 特 定 資 産 保 有 率	125.5	102.0	105.6	59.9	△	$\frac{\text{退 職 給 与 引 当 特 定 資 産}}{\text{退 職 給 与 引 当 金}}$	退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか
基 本 金 比 率	97.5	99.8	101.2	96.9	△	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}}$	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合はどうか
減 価 償 却 比 率	49.1	48.0	50.3	53.9	～	$\frac{\text{減 価 償 却 累 計 額 (図 書 除 却)}}{\text{減 価 償 却 資 産 取 得 価 額 (〃)}}$	減価償却累計額が取得価格に対してどの程度占めているか
積 立 率	39.8	30.0	28.2	72.5	△	$\frac{\text{運 用 資 産}}{\text{要 積 立 額}}$	持続的かつ安定的な経営を継続するために必要な運用資産の保有状況はどうか

評価指標 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない
 全国平均は前年度の値

財産目録

(単位：千円)

一、	資	産	総	額	8,564,751	
内	1.	基	本	財	産	6,443,291
	2.	運	用	財	産	2,121,459
二、	負	債	総	額	682,860	
三、	正	味	財	産	7,881,891	

項	目	数	量	金	額
(一)	資				8,564,751
1.	基				6,443,291
(ア)	土	102,865.92	㎡		1,025,123
(イ)	建	41,560.74	㎡		4,292,005
(ウ)	構	221	点		760,124
(エ)	図	103,299	冊		228,707
(オ)	教	18,812	点		108,537
(カ)	管	183	点		6,410
(キ)	車	9	台		21,417
(ク)	ソ	4	本		968
(ケ)	建				0
2.	運				2,121,459
(ア)	現				328,253
(イ)	修				56,256
(ウ)	卒				5,657
(エ)	未				141,724
(オ)	借	1	点		2,258
(カ)	電	15	基		1,286
(キ)	施	3	点		285
(ク)	差				350
(ケ)	有	29,822,379.00	株		42,977
(コ)	土	61,913.00	㎡		29,919
(サ)	退				262,490
(シ)	施				1,206,279
(ス)	第				0
(セ)	長				4,837
(ソ)	前				91
(タ)	立				38,797
(二)	負				682,860
1.	固				248,468
(ア)	長				0
(イ)	退				248,468
2.	流				434,391
(ア)	短				0
(イ)	未				59,097
(ウ)	前				280,495
(エ)	預				94,800
(1)	職				32,886
(2)	修				56,256
(3)	卒				5,657

正味財産の推移

